

函館市地域包括支援センターこん中央

(地域包括支援センター運営業務)

令和6年度（2024年度）活動評価

令和7年度（2025年度）活動計画

中央部第1圏域



— 目 次 —

1. 圏域の現状と課題	・・・	1
2. 重点活動	・・・	5
3. 令和6年度活動評価および令和7年度活動計画		
ア 地域包括支援センターの運営	・・・	6
(ア) 総合相談支援業務	・・・	6
(イ) 権利擁護業務	・・・	12
(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	・・・	18
(エ) 地域ケア会議推進事業	・・・	22
イ 生活支援体制整備事業	・・・	28
(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務	・・・	28
ウ 認知症総合支援事業	・・・	40
(ア) 認知症初期集中支援推進事業	・・・	40
(イ) 認知症地域支援・ケア向上事業	・・・	40

圏域の現状と課題

1. 人口の推移と年齢構成

(人)

	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R6.9	割合	全市
年少人口	1,864	1,803	1,731	1,641	1,555	1,480	7.1%	8.6%
生産年齢人口	12,001	11,812	11,666	11,434	11,210	11,224	54.2%	54.1%
高齢人口	8,764	8,670	8,508	8,308	8,088	8,002	38.6%	37.2%
65～74歳	4,066	4,021	3,903	3,653	3,411	3,286	15.9%	16.1%
75歳以上	4,698	4,649	4,605	4,655	4,677	4,716	22.8%	21.2%

2. 世帯構成 (R6.9)

(世帯)

	世帯数	割合	全市
高齢者単身世帯	4,139	31.2%	26.9%
高齢者複数世帯	1,303	9.8%	13.0%
その他	7,843	59.0%	60.1%

3. 事業対象者・要支援認定者の状況

(人)

	R5.9	R6.9	全市
認定者数	762	733	7,582
認定率	9.3%	9.2%	8.6%
給付実績	484	455	4,409
給付率	5.9%	5.7%	5.0%

4. 介護保険サービス事業所数 (R6.9)

(件)

	事業所数
居宅介護支援等(※1)	14
地域密着型サービス(※2)	15

※1 居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護事業所

※2 地域密着型サービス事業所(小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護を除く)

5. 地域環境と医療・福祉・教育等機関

①圏域の地域環境

函館市中央部に位置し、東西に函館湾と津軽海峡(大森浜)、圏域中央に亀田川が流れる。海拔2～12Mにあり、勾配はなだらかで比較的平坦な地形である。国道5号線・八幡通り・高砂通り・漁火通り等の主要道路の他、路面電車が通り、交通の便は比較的良い。反面、広路の多さが生活に影響し、外出機会の減少の要因になっている。

函館駅周辺の朝市商店街・ホテル群エリア、金堀町や広野町、日乃出町にある団地群、千代台公園や総合福祉センター等の市内全域の住民が利用する公共施設がある。

学校の統廃合による校区拡大により、児童、生徒の通学時の安全確保が課題になっている。

②医療機関数

(件)

病院	3(一般病床、地域包括ケア病床、療養病床、緩和ケア病床)
診療所	17(内科6、整形外科1、皮膚科1、歯科9)

③地域組織

(団体)

町内会、自治会	19(内、自治会1)	老人クラブ	6
民生児童委員協議会	4		

④保育・教育機関数

(園,校)

認定こども園、保育所、幼稚園	7	小学校	4
中学校	1	専門学校	1

⑤公園・公共施設等

(施設)

公園、緑地	21
社会教育関係施設	13 (総合福祉センター、青年センター、児童館2、図書館、競輪場、スポーツ施設7)

⑥福祉施設

(施設)

障がい者福祉施設	指定就労移行支援事業所1、指定就労継続支援事業所 (B型) 15 指定生活介護事業所3、指定短期入所事業所3、 指定共同生活援助事業所6、指定一般/特定相談支援事業所4 指定児童発達支援事業所2、指定放課後等デイサービス事業所4、 保育所等訪問支援事業所2、障害児相談支援事業所3
救護施設	明和園
母子生活支援施設等	母子家庭等就業・自立支援センター、高砂母子ホーム無料職業 相談所、高砂母子ホーム、

6. 高齢者の健康・社会参加等の状況

- ・圏域内の健康づくり教室 (以下、「サロン」という。) は、令和6年度中廃止するところはなく活動を継続することができている (1サロンは自主化グループへ移行し活動継続)。しかし、参加者が増えない、リーダーの担い手不足等課題を抱えたサロンもあり、今後の活動継続に影響することが懸念される。
- ・地域包括支援センター (以下、「センター」という。) が後方支援で関わっている7カ所のサロン参加者に対し、生活習慣に関するアンケートを実施した。内容は、生活習慣病に対する印象や食生活、運動の実施状況、嗜好品の摂取に関して等だが、生活習慣病予防のため生活習慣に気を付けたり、自主的に運動の時間を設ける等健康に対する意識が高いことが把握できた。
- ・サロンの参加者が増えない背景として、サロンの活動を知らない高齢者や、気軽に通える場所にサロンがなく、参加したくても参加できない高齢者がいるためであり、地域住民の誰もが健康づくりや介護予防に取り組めるよう、周知方法や新たな集いの場の開設に向けて検討したい。
- ・小学校区に住む地域住民と共に立ち上げた、中部カフェ企画委員会 (中部カフェ企画委員会のメンバーは、地域住民、学校PTA、障害サービス事業所、警察、センター職員で構成) が主体となり、世代を問わない集いの場を企画した。令和6年度は2回開催し、地域の高齢者や子ども、その保護者等多数の地域住民が参加した。参加者からは、集いの場の開催を継続して欲しいとの声がある一方で、この活動を理解して協力してくれる機関の増加や、高齢者の参加をさらに増やすこと等課題は残されている。

7. 地域の見守り、支え合いについて

- ・高齢化率、独居率が8~9割を超える市営住宅では、自治会役員の高齢化、担い手不足等により、自治会の機能が低下し見守り活動が困難となり、支援が必要な人を把握しづらい状況にあった。この問題に対応するため、民生児童委員 (以下、「民生委員」という。) とセンター職員が訪問し、センターの周知や実態把握を行ったが、戸別訪問がきっかけとなり、支援につながったケースがあった。また、この戸別訪問の結果を踏まえて地域課題を検討する地域ケア会議を開催した。地域ケア会議には、民生委員や町会、在宅福祉委員等 (以下、「地域支援者」という。) 、地域の福祉サービス事業所、介護サービス事業所、障害サービス事業所、行政が参加した。見守り体制の現状 (活動状況や従事している人の声等) を共有し、課題抽出、手立てを協議した。結果、令和7年度の活動として、戸別訪問の継続や地域で見守りできる集いの場の開設に向けた検討等があげられたため、関係者と協力して取り組んでいきたい。

8. 日常生活圏域レベルの地域課題の整理に基づく地域課題

優先順位	地域の問題	問題が生じている要因	地域課題
1	将来的にサロンが閉鎖となる恐れがある	活動の中心になれる人がいない、必要性を感じていない、活動の意欲がない/新しい参加者が少ない、いない/リーダーに負担が集中している/サロンのPRが少ない/サロン立ち上げ時にいない参加者はサロンの必要性を感じていない、呼ばれたから参加している	地域住民が健康づくりの場の必要性を検討できる
2	支援が必要にも関わらず相談につながっていない世帯が多い	本人家族は人に言いたくない/相談先を知らない/相談先を知っていても相談しない/相談が必要な状況を認識できない、困っていない/判断力が低い/第三者が気づかない、見守りも難しい	住人が支援の必要な世帯について相談することができる
3	関係者が気にしていても、相談につながるタイミングが遅い	様子をうかがう期間が長い（利用料の滞納含み）/大丈夫ではないのに大丈夫だと思う/本人への影響を考えていない/客観的に状況を把握できていない/大ごとにしたくない/事業所都合で本人主体の支援ではない/相談に迷う/虐待に関する知識はあるが行動につながらない	ケアマネジャーや介護サービス事業所が権利擁護ケースに対し早期に対応できる
4	健康づくり活動に取り組めない人がいる	サロン活動を知らない/サロンの周知が足りない/内容に興味を持たず参加に至らない/介護予防に対する意識が高い高齢者が少ない/町会独自の活動を知らない/自分が暮らす町の活動を知らないため、参加意欲につながらない/活動が自分に向けたものと思わない/参加のイメージが沸かない/地域から孤立している	健康づくりに興味関心のある高齢者が地域にあるサロン活動等を知ることができる

重点活動

番号	地域課題	各業務での取組
1	地域住民が健康づくりの場の必要性を検討できる	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに集いの場がない地域を対象に、新たな集い場の開設に向けて、地域支援者や地域コーディネーター等を参集し、地域ケア会議を開催する。 ・既存の集い場（サロン活動等）同士が活動の中での困りごとや取り組んでいること等を話題にし、交流できる機会を持つ。
2	住人が支援の必要な世帯について相談することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・市営住宅を対象に地域支援者とセンター職員で見守り訪問し、センターが相談先であることを周知する。 ・広報紙へ、センターの機能について掲載し、地域住民への広報を継続する。広報紙の内容の見直し、広報紙の新規配布先の増加等により、地域住民に、より広報紙を手にとってもらえるようアプローチする。
3	ケアマネジャーや介護サービス事業所が権利擁護ケースに対し早期に対応できる	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーや介護サービス事業所を対象にした研修会を継続して開催する。支援者が早期対応できるような内容に工夫する。 ・居宅介護支援事業所への訪問を継続し、ケアマネジャーと懇談の中で早期対応に関することを話題にする。
4	健康づくりに興味関心のある高齢者が地域にあるサロン活動等を知ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・各サロンで広報紙（チラシ）を作成し、地域住民へ配布する。 ・上記の広報紙（チラシ）を作成、配布したことをセンターの広報紙に掲載し、地域住民へ周知する。 ・地域支援者と地域の活動状況について懇談の機会を持つ。その活動状況について地域支援者から地域住民へ広報してもらう。

令和6年度活動評価および令和7年度活動計画

ア 地域包括支援センターの運営

(ア) 総合相談支援業務

【根拠法令】 介護保険法第115条の45第2項第1号

【目的】 地域の高齢者等が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるよう、地域における関係者とのネットワークを構築するとともに、高齢者等の心身の状況や生活実態、必要な支援等を幅広く把握し、相談を受け、地域における適切な保健・医療・福祉サービス、関係機関または制度の利用につなげる等の支援を行う。

事業内容	令和6年度 活動評価																																																																
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																															
総合相談支援業務	<p>○利用者基本情報作成状況</p> <p style="text-align: right;">(件・人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標数値</td> <td>779</td> <td>715</td> <td>675</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">作成数</td> <td>予防給付</td> <td>183</td> <td>165</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td>うち新規</td> <td>21</td> <td>31</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>見守り</td> <td>97</td> <td>90</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>うち新規</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>470</td> <td>511</td> <td>499</td> </tr> <tr> <td>うち新規</td> <td>217</td> <td>248</td> <td>257</td> </tr> <tr> <td>合計(A)</td> <td>750</td> <td>766</td> <td>777</td> </tr> <tr> <td>うち新規</td> <td>293</td> <td>334</td> <td>339</td> </tr> <tr> <td>高齢者人口(B)</td> <td>8,308</td> <td>8,088</td> <td>7,925</td> </tr> <tr> <td>実態把握率 (A/B)</td> <td>9.0%</td> <td>9.5%</td> <td>9.8%</td> </tr> </tbody> </table>		R4年度	R5年度	R6年度	目標数値	779	715	675	作成数	予防給付	183	165	164	うち新規	21	31	20	見守り	97	90	114	うち新規	55	55	62	その他	470	511	499	うち新規	217	248	257	合計(A)	750	766	777	うち新規	293	334	339	高齢者人口(B)	8,308	8,088	7,925	実態把握率 (A/B)	9.0%	9.5%	9.8%	<p>【活動目標】 今まで関わりが少なかった機関及び地域住民が福祉拠点としてのセンターの役割を知ることができる</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別ケース支援や懇談、地域活動を通じて、新たにネットワークを構築できた機関や地域住民がおり、目標は達成することができた。 安否確認を通じて、新たに関わりをもった個人商店が関わりの中でセンターの役割を知り、その後、広報紙の新規配布先となった。 研修会での意見交換から、更生保護に関する機関の懇談会の開催につながった。 障害サービス事業所のお祭りでは、その中にブースを設置する機会が得られ、お祭りに参加した地域住民へセンターに関する周知を行える機会となった。 民生委員との訪問した市営住宅の対象者の中には経済的な困窮や身体機能の低下等から支援が必要な状況にも関わらず、相談につながっていない世帯があった。支援が必要な対象者への介入のきっかけとなれた他、支援に至らなくてもこれまでセンターと関わりがなかった高齢者等の実態把握ができ、センターの周知にもつながった。 見守りネットワーク事業での訪問から支援につながった世帯が多い地域があったように、高齢者世帯が多い地域では、支援が必要な状況であっても、必要な支援を受けられずにいる高齢者は潜在している。センターからのアウトリーチの継続や、地域住民に対して、センターの機能をさらに周知することで支援が必要な世帯への早期介入につなげたい。 														
		R4年度	R5年度	R6年度																																																													
	目標数値	779	715	675																																																													
	作成数	予防給付	183	165	164																																																												
		うち新規	21	31	20																																																												
見守り		97	90	114																																																													
うち新規		55	55	62																																																													
その他		470	511	499																																																													
うち新規		217	248	257																																																													
合計(A)	750	766	777																																																														
うち新規	293	334	339																																																														
高齢者人口(B)	8,308	8,088	7,925																																																														
実態把握率 (A/B)	9.0%	9.5%	9.8%																																																														
<p>○総合相談対応件数</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実件数</td> <td>937</td> <td>1,092</td> <td>942</td> </tr> <tr> <td>延件数</td> <td>1,617</td> <td>1,909</td> <td>1,582</td> </tr> </tbody> </table>		R4年度	R5年度	R6年度	実件数	937	1,092	942	延件数	1,617	1,909	1,582																																																					
	R4年度	R5年度	R6年度																																																														
実件数	937	1,092	942																																																														
延件数	1,617	1,909	1,582																																																														
<p>○相談形態内訳（延）</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電話相談</td> <td>600</td> <td>741</td> <td>622</td> </tr> <tr> <td>来所相談</td> <td>67</td> <td>99</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>訪問相談</td> <td>888</td> <td>972</td> <td>815</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>62</td> <td>97</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table>		R4年度	R5年度	R6年度	電話相談	600	741	622	来所相談	67	99	92	訪問相談	888	972	815	その他	62	97	53																																													
	R4年度	R5年度	R6年度																																																														
電話相談	600	741	622																																																														
来所相談	67	99	92																																																														
訪問相談	888	972	815																																																														
その他	62	97	53																																																														
<p>○相談者続柄別相談数（実）の推移と前年比割合</p> <p style="text-align: center;">総合相談 相談者別</p> <table border="1"> <caption>総合相談 相談者別 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>相談者別</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>前年比割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>本人</td><td>100</td><td>105</td><td>100</td><td>-9.9%</td></tr> <tr><td>家族</td><td>150</td><td>145</td><td>140</td><td>-2.5%</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>-38.5%</td></tr> <tr><td>近所</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>-42.9%</td></tr> <tr><td>民生委員</td><td>20</td><td>25</td><td>20</td><td>-25.0%</td></tr> <tr><td>高齢者支援員</td><td>20</td><td>25</td><td>20</td><td>-43.8%</td></tr> <tr><td>生活支援員</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>-35.7%</td></tr> <tr><td>医療相談員</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>-4.8%</td></tr> <tr><td>業務</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>-7.7%</td></tr> <tr><td>ケアマネ</td><td>100</td><td>110</td><td>100</td><td>-36.8%</td></tr> <tr><td>介護施設</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>50.0%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>-25.6%</td></tr> </tbody> </table>	相談者別	R4年度	R5年度	R6年度	前年比割合	本人	100	105	100	-9.9%	家族	150	145	140	-2.5%	地域住民	10	15	10	-38.5%	近所	10	15	10	-42.9%	民生委員	20	25	20	-25.0%	高齢者支援員	20	25	20	-43.8%	生活支援員	10	15	10	-35.7%	医療相談員	10	15	10	-4.8%	業務	10	15	10	-7.7%	ケアマネ	100	110	100	-36.8%	介護施設	10	15	10	50.0%	その他	10	15	10	-25.6%
相談者別	R4年度	R5年度	R6年度	前年比割合																																																													
本人	100	105	100	-9.9%																																																													
家族	150	145	140	-2.5%																																																													
地域住民	10	15	10	-38.5%																																																													
近所	10	15	10	-42.9%																																																													
民生委員	20	25	20	-25.0%																																																													
高齢者支援員	20	25	20	-43.8%																																																													
生活支援員	10	15	10	-35.7%																																																													
医療相談員	10	15	10	-4.8%																																																													
業務	10	15	10	-7.7%																																																													
ケアマネ	100	110	100	-36.8%																																																													
介護施設	10	15	10	50.0%																																																													
その他	10	15	10	-25.6%																																																													



令和7年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
地域住民が支援の必要な状況について、相談機関へ発信することができる	<p>1 総合相談支援業務に関する広報・啓発</p> <p>①広報紙・リーフレットの発行、配布（年3回発行）</p> <p>1) 広報紙の内容</p> <ul style="list-style-type: none">・福祉拠点としてのセンターの機能、役割・高齢者総合相談について・介護保険制度、高齢者福祉サービス、心身の健康、介護予防等・認知症の理解、関わり方、支援等・広報紙を地域住民により手に取ってもらえるように、センターの活動等が伝わるような内容とする。 <p>2) 広報紙等の配布方法</p> <ul style="list-style-type: none">・市営住宅へ広報紙を投函し、地域支援者や関係機関と協働した実態把握を継続・高齢者が立ち寄る先や高齢者宅を訪問する機関に設置継続 町会館、民生児童委員協議会（以下、「民児協」という。）、医療機関、薬局、公共施設、金融機関、スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、個人商店、美容室等・多様な機関への設置継続 小中学校、更生保護関係機関、障害サービス事業所等 <p>②SNSでの発信</p> <ul style="list-style-type: none">・センターの実施する事業等について掲載する。・センターの実施する事業等について掲載する。 <p>2 支援が必要な（必要となり得る）高齢者の実態把握</p> <ul style="list-style-type: none">・訪問、来所等による相談受理時は対象者だけではなく、同居家族についても情報収集し、世帯単位で実態把握を行う。・見守りネットワーク事業の訪問による実態把握では、対象者へ広報紙を配布し、センターについての広報を行う。・地域支援者と地域の活動状況等に関して懇談を行う中で、気になる高齢者はいないか、声掛けを行い、相談につなげる。・相談受付時には、相談者がどのようにセンターのことを知り、相談に至ったのか聞き取りを行う。・市営住宅の要援護者を抽出し、地域支援者と協働し、実態把握を行う。支援が必要な場合は対応する機関、制度へつなぐ。	<ul style="list-style-type: none">・住民に対する広報、啓発回数・広報紙発行回数・出前講座、講師派遣回数・センターの把握経路・相談対応件数・相談者の続柄内訳・相談者別相談数と前年比割合

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和6年度 活動評価			
	実績（実施回数、内容、実施方法等）		活動目標に対する評価	
総合相談 支援業務	○相談者の続柄内訳（延・重複あり） (件)			
		R4年度	R5年度	R6年度
	本人	850	788	663
	家族親族	670	831	655
	民生委員	63	68	35
	町会・在宅福祉委員	17	16	12
	知人・近隣住民	33	33	34
	介護支援専門員	164	252	166
	介護保険事業所職員	30	46	21
	医療機関	95	151	130
行政機関職員	93	101	84	
警察・消防署職員	11	14	12	
民間企業	27	14	13	
その他	28	49	64	
	○相談者のセンター把握経路 (件)			
	R4年度	R5年度	R6年度	
行政	56	48	48	
民生委員、町会、在宅福祉委員	2	6	3	
医療機関等	30	35	36	
友人、知人、近隣等	15	11	16	
広報紙、ポスター	20	11	4	
インターネット関係	12	10	12	
以前から関わり有り	167	153	169	
その他	53	97	56	
	○住民に対する広報・啓発回数 (回)			
	R4年度	R5年度	R6年度	
広報紙の発行	3	3	3	
リーフレット等配布	24	13	7	
出前講座・講師派遣	8	18	6	
認知症サポーター養成講座	3	3	3	
	○広報紙等の配布先 (件)			
	R4年度	R5年度	R6年度	
配布機関数	148	156	155	
(再)新規機関数	39	6	3	
	※令和6年10月 市営住宅へ民生委員と訪問 (令和5年度に広報紙全戸配布した市営住宅を対象に実施)			
	○懇談を行った機関			
	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> 中部小学校、中部小学校地域コーディネーター、 中部小学校PTA、日乃出町会、第9方面民生委員、 自衛隊函館地方協力本部、救護施設明和園、 函館地区保護司会、相談支援事業所結絆、 大森浜小学校地域コーディネーター、松川町会、 北星小学校地域コーディネーター </div>			

令和7年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和6年度 活動評価																																									
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																								
総合相談 支援業務	○相談内容内訳（延・重複あり） (件)	<p>【活動目標】 センター職員が疾患理解を深め、介護予防を意識した支援ができる</p> <p>【評価】 ・概ね毎月、定例ミーティング内で生活習慣病に関する研修会を行い、疾病に関する理解を深めたことで、個別支援を行う際の介護予防に対する意識は向上した。 しかし、セルフマネジメントの実施件数や、相談内容内訳「介護予防」件数はほぼ横ばいであるように、具体的な支援の実践には至らず、目標は一部達成したと評価する。</p> <p>・生活習慣病に関する研修に参加した職員からは「疾病を自分で調べて、報告することでより知識が深まった」等、反応があり、研修会の実施は効果的であったと考える。</p> <p>・セルフマネジメント実施件数は令和5年度と比べてほぼ横ばいである。 センター職員からは「セルフマネジメントツールを対象者へ提案したいと思うが他業務の都合もあるため、実施に至れない」との声もあり、ツールを使用する以外の介護予防に関する支援方法を検討する必要がある。</p> <p>・生活習慣病の多くは、食事内容や運動、禁煙、睡眠等の生活習慣の改善が必要である。その具体的な取り組み方法の知識が増えることで、センター職員の介護予防を意識した支援につながると考え、令和7年度の取り組みとしたい。</p>																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護保険・総合事業</td> <td>1,224</td> <td>1,450</td> <td>1,208</td> </tr> <tr> <td>保健福祉サービス</td> <td>199</td> <td>207</td> <td>183</td> </tr> <tr> <td>介護予防</td> <td>16</td> <td>21</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>心身の健康</td> <td>171</td> <td>130</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>認知症</td> <td>93</td> <td>146</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>住まい</td> <td>92</td> <td>93</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>権利擁護</td> <td>61</td> <td>75</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>安否確認</td> <td>37</td> <td>23</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>54</td> <td>34</td> <td>79</td> </tr> </tbody> </table>			R4年度	R5年度	R6年度	介護保険・総合事業	1,224	1,450	1,208	保健福祉サービス	199	207	183	介護予防	16	21	18	心身の健康	171	130	65	認知症	93	146	114	住まい	92	93	80	権利擁護	61	75	60	安否確認	37	23	16	その他	54	34	79
			R4年度	R5年度	R6年度																																					
	介護保険・総合事業		1,224	1,450	1,208																																					
	保健福祉サービス		199	207	183																																					
	介護予防		16	21	18																																					
	心身の健康		171	130	65																																					
	認知症		93	146	114																																					
	住まい		92	93	80																																					
	権利擁護		61	75	60																																					
安否確認	37	23	16																																							
その他	54	34	79																																							
○セルフマネジメント実施件数 (件)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>		R4年度	R5年度	R6年度	実施件数	10	7	5																																	
	R4年度	R5年度	R6年度																																							
実施件数	10	7	5																																							
○センター内研修実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・実施件数…9回 ・研修内容 																																									
①糖尿病（病態、診断、観察の視点）																																										
②糖尿病（三大合併症、観察項目、助言内容）																																										
③高尿酸血症（症状、関連する生活習慣病、改善に向けた観察の視点）																																										
④脂質異常症（診断、原因、予防改善方法）																																										
⑤肝硬変（病態、症状、診断、予防方法）																																										
⑥高血圧症（病態、種類、生活における留意点）																																										
⑦带状疱疹（症状、合併症、後遺症、原因、予防方法）																																										
⑧大腸がん（発生要因、形態機能、症状、予防方法）																																										
⑨肥満（定義、判定、関連する健康障害、対策方法）																																										

令和7年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>センター職員が介護予防につながる生活習慣に関する知識を深めることができる</p>	<p>1 介護予防に着目した相談対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の介護予防の観点から課題がある場合、相談として捉えられるよう、セルフマネジメントツールを活用等する。 セルフマネジメントツールの活用に至らなくても、介護予防に関する情報提供を行う等対応する他、ツールを使用する以外の介護予防に関する支援方法を検討する。 ・介護予防に関する研修会に参加し、知識を身につけ、フレイル状態に気づくことができるようにする。 研修に参加していない職員には朝礼等で伝達し、センター全体でスキルアップを図る。 ・定例ミーティング時に生活習慣の具体的な見直し方等に関する内部研修を実施する。 ・センター内で総合相談業務における「介護予防」の計上方法を再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容内訳 ・いきいき生活手帳の実施回数 ・内部研修の実施回数、内容 ・参加した職員の反応

(イ) 権利擁護業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第2号

【目的】高齢者等が地域において尊厳のある生活を維持し、安心して生活を行うことができるよう、専門的・継続的な視点から、高齢者等の権利擁護のため、必要な支援を行う。

事業内容	令和6年度 活動評価																																																																					
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																																				
権利擁護業務	○権利擁護相談対応状況	<p>【活動目標】 関係機関が支援を必要とする高齢者に気づき協働できる</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議への参加や個別ケース支援を通じて、関係機関と連携することができたケースはあった。しかし一方で、センターから支援が必要な対象者の状況を報告するも、共有のみに留まったケースもみられ、目標は一部達成したと評価する。 令和6年度に開催した個別ケースを検討する地域ケア会議の5件のうち、その半数以上に関係機関が参加した。 個別ケースを検討する地域ケア会議に参加した関係機関は、認知機能の低下による生活への支障や複合的な課題を有する家庭状況等、支援を必要とする対象者の現状を把握し、センター職員との同行訪問や不足する家財の購入、その利用に向けた支援等、役割分担を行い協働することができた。 地域課題を検討する地域ケア会議では、支援が必要な高齢者等が潜在化している、という地域課題を共有し、その早期発見、相談に向けた手立てを共に考えることができる機会となった。 一方で、他の支援困難ケース等では、対象者の認知機能の低下による生活の困りごと等を伝えるも、共有のみにとどまり協働に至らないケースや、関係機関から相談を受け、実態把握のために訪問すると金銭管理ができない等の権利擁護対応が必要になっているケースが見受けられた。関係機関職員の異動等の都合からアプローチの困難さがあり、令和7年度は目標とはしないが、引き続き、個別ケース支援を通じて同行訪問の声掛けや、地域ケア会議への参集等、個別でアプローチを続けていく。 																																																																				
	①対応件数 (件)																																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース数（実）</td> <td>35</td> <td>44</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table>			R4年度	R5年度	R6年度	ケース数（実）	35	44	52																																																												
			R4年度	R5年度	R6年度																																																																	
	ケース数（実）		35	44	52																																																																	
	②対応事案内訳（実・重複あり） (件)																																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者虐待</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td> 終結数</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td> 終結率</td> <td>57.1%</td> <td>50.0%</td> <td>85.7%</td> </tr> <tr> <td>セルフネグレクト</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>成年後見等</td> <td>5</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>消費者被害</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>困難事例</td> <td>20</td> <td>31</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table>			R4年度	R5年度	R6年度	高齢者虐待	7	6	7	終結数	4	3	6	終結率	57.1%	50.0%	85.7%	セルフネグレクト	0	0	0	成年後見等	5	14	13	消費者被害	0	0	0	困難事例	20	31	38																																				
			R4年度	R5年度	R6年度																																																																	
	高齢者虐待		7	6	7																																																																	
	終結数		4	3	6																																																																	
終結率	57.1%	50.0%	85.7%																																																																			
セルフネグレクト	0	0	0																																																																			
成年後見等	5	14	13																																																																			
消費者被害	0	0	0																																																																			
困難事例	20	31	38																																																																			
③相談者・通報者内訳（実） (件)																																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者本人</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>家族・親族</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>町会・在宅福祉委員</td> <td rowspan="2">2</td> <td rowspan="2">4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>民生委員</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>知人・近隣住民</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>介護支援専門員</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>介護保険事業所職員</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>行政機関</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>警察・消防</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>民間企業</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>障害関係</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童関係</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>自立相談支援機関</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>成年後見センター</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>匿名・不明</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		R4年度	R5年度	R6年度	対象者本人	3	1	5	家族・親族	5	5	5	町会・在宅福祉委員	2	4	0	民生委員	4	知人・近隣住民	1	2	2	介護支援専門員	12	13	16	介護保険事業所職員	0	0	2	医療機関	6	6	5	行政機関	6	5	5	警察・消防	0	5	3	民間企業	-	-	1	障害関係	-	-	0	児童関係	-	-	0	自立相談支援機関	-	-	2	成年後見センター	-	-	0	匿名・不明	-	-	0	その他	0	3	1
	R4年度	R5年度	R6年度																																																																			
対象者本人	3	1	5																																																																			
家族・親族	5	5	5																																																																			
町会・在宅福祉委員	2	4	0																																																																			
民生委員			4																																																																			
知人・近隣住民	1	2	2																																																																			
介護支援専門員	12	13	16																																																																			
介護保険事業所職員	0	0	2																																																																			
医療機関	6	6	5																																																																			
行政機関	6	5	5																																																																			
警察・消防	0	5	3																																																																			
民間企業	-	-	1																																																																			
障害関係	-	-	0																																																																			
児童関係	-	-	0																																																																			
自立相談支援機関	-	-	2																																																																			
成年後見センター	-	-	0																																																																			
匿名・不明	-	-	0																																																																			
その他	0	3	1																																																																			
○地域ケア会議やカンファレンス、懇談会の開催状況																																																																						
①個別ケースを検討する地域ケア会議																																																																						
1) 令和6年6月12日 テーマ：本人が火事等の危険性のない環境で安全に生活するために。 参加者：在宅福祉委員、ケアマネジャー、生活支援課																																																																						
2) 令和6年10月25日 テーマ：お金のことを心配せず、孫2人と不安のない生活を過ごしたい 参加者：民生委員、主任児童委員、ヘルパー事業所、訪問看護事業所、子ども見守り相談課、教育機関 (生活支援課は都合がつかず事前に聞き取り)																																																																						

令和7年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

(イ) 権利擁護業務

事業内容	令和6年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
権利擁護 業務	<p>3) 令和6年11月19日 テーマ：これからも夫婦で穏やかに暮らしていくために 参加者：民生委員、町会役員、ケアマネジャー</p> <p>4) 令和7年2月14日 テーマ：これからも今のアパートで暮らしたい。 本人が安心安全に暮らしていくために 参加者：民生委員、燃料店、小規模多機能型居宅介護、 訪問看護事業所、生活支援課</p> <p>5) 令和7年2月19日 テーマ：「忘れっぽくなって困ってます。家にいたい」 を応援する話し合い 参加者：民生委員、ケアマネジャー、訪問看護事業所、 警察</p> <p>②地域課題を検討する地域ケア会議</p> <p>1) 令和6年11月6日 テーマ：安心な生活のために ～要援護者の早期把握と見守り合い～ 参加者：民生委員、在宅福祉委員、ケアマネジャー、 小規模多機能型居宅介護、生活支援課、 地域包括ケア推進課、自立相談支援機関、 住宅型有料老人ホーム、就労継続支援事業</p> <p>③地域支援者、関係機関との懇談会</p> <p>1) 令和6年8月30日 テーマ：市営住宅の見守りについて 参加者：町会関係者、民生委員</p> <p>2) 令和6年10月11日 テーマ：保護司会とセンターの連携について 参加者：函館地区保護司会関係者</p>	

令和7年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(イ) 権利擁護業務

事業内容	令和6年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
権利擁護業務	<p>○権利擁護に関する研修会への参加状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年 4月30日 地域包括ケア担当職員セミナー ・令和6年 5月23日 高齢者虐待対応現任者標準研修 ・令和6年 6月 8日 北海道社会福祉士会道南地区支部定例学習会 ・令和6年 7月 9日 長寿社会開発セミナー研究セミナー ・令和6年 8月10日 北海道高齢者虐待防止推進研修会（管理者編） ・令和6年 9月30日 長寿社会開発セミナー研究セミナー ・令和6年11月 2日 道南地区支部三団体合同研修会 ・令和6年11月 6日 地域包括支援センター職員課題別研修 ・令和6年11月13日 法テラス地方協議会 ・令和6年11月28日 北海道地域生活定着支援推進会議 ・令和7年 2月 7日 高齢者の権利擁護を考える集い ・令和7年 2月21日 家族対応が難しいケースのケアマネジメント術 ・令和7年 2月28日 北海道社会福祉士会道南地区支部定例学習会 ・令和7年 3月18日 高齢者虐待対応研修 <p>○センター内研修の開催状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年2月12日 「なぜ高齢者虐待が起こるのか」 <p>○研修会の開催状況</p> <p>①ケアマネジャー対象の研修会 目的：なぜ不適切介護が発生してしまうのか、その背景を知ることの大切さを学び、複雑化するケースへの対応力向上を目指す。 参加者：18名（圏域内の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所） 内容：講義「不適切介護のケースとは」事例紹介、全体演習</p> <p>②介護サービス事業所職員対象の研修会 目的：高齢者虐待事例をもとに、早期通報の必要性や、そのタイミングに関する理解を深めることができる。 参加者：41名（訪問介護事業所、通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所、定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所、訪問看護事業所、訪問リハビリテーション事業所、短期入所生活介護事業所、特別養護老人ホーム、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援事業所） ※地域包括支援センターときとうと合同開催 内容：講義「高齢者虐待について」事例紹介、グループワーク、全体共有</p>	<p>【活動目標】</p> <p>センター職員が権利擁護支援に必要な知識が増える</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待対応や意思決定支援、支援困難事例等に関する研修会へ積極的に参加した。研修で学んだことは朝礼で報告し、研修資料を回覧し共有することで参加していない職員も知識が得られるようにした。令和6年度は対応経験が少ない職員も対応経験が多い職員からスーパービジョン等を受けながらケース対応を行い、全職員が権利擁護ケースを担当した。以上のことから、目標は達成したと評価する。 ・令和6年度中に高齢者虐待対応ケース（疑い含め）は16件、成年後見制度利用に向けて支援を行ったケースは13件、支援困難ケースは38件と権利擁護対応が必要な対象者は引き続き多い状況が続いている。センター職員の権利擁護支援に関するスキルアップに取り組むことに加えて、精神的な負担の大きい権利擁護ケースをフォローし合い、対応することができるようなセンターの体制が必要である。 <p>【活動目標】</p> <p>関係機関（ケアマネジャー、介護サービス事業所）が権利擁護の実践を学ぶことができる</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーに対する研修では、複数の事例をもとに、不適切介護に至ったその背景、支援を話題にし、参加者自身であればどのように声掛けをするか等を協議することで、権利擁護支援においては関係機関との連携、早期相談が大切であることを理解してもらえよう内容とした。終了後のアンケートでは、「早期に関係者へ連絡、共有することが大切であると理解できた」と答えた人が大半を占めた。（18ページ、包括的・継続的ケアマネジメント業務 アンケート結果参照） ・介護サービス事業所に対する研修会では、初動期対応に焦点を当て、事例をもとに早期通報の大切さを伝える内容とした。参加者からは、「虐待対応状況、流れについて理解できた」といった反応が多く得られた。以上のことから、目標は達成したと評価する。 ・一方、ケアマネジャーや介護サービス事業所から相談を受けた権利擁護ケースの中には、対象者の権利侵害が起きた状況を関係者が把握してから時間が経過したケースが見受けられた。状況の複雑化、深刻化を防ぐためにも、支援者が早期に対応できることが課題である。

令和7年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
センター内の多職種が相談し合い、権利擁護ケース対応を行うことができる	<p>1 センター職員のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待や成年後見制度等、権利擁護対応に関する研修会へ参加する。 ・朝礼や定例ミーティング等で研修内容を他職員へ伝達し、参加していない職員もスキルアップできるようにする。 ・高齢者虐待等、権利擁護に関するセンター内研修を開催する。 ・ケース対応で感じた疑問等を、担当弁護士との定期相談会で話題にし、知識向上につなげる。 <p>2 センター内の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応経験の少ない職員が権利擁護ケースに対応する場合、複数職員で対応する。 ・権利擁護ケースを朝礼、定例ミーティング等で検討する機会を持つ。 ・ケースの状況に応じて、センター内で事例検討会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護に関する研修会への参加状況 ・権利擁護ケースの対応状況（対応したセンター職員の声等） ・権利擁護ケースの終結数
関係機関（ケアマネジャーや介護サービス事業所）が適切なタイミングで相談することができる	<p>1 権利擁護研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーを対象に、事例をもとに早期相談につながる視点を得られるような権利擁護に関する研修会等を開催する。 （令和7年9月～12月を予定） ・介護サービス事業所を対象に、様々な類型の高齢者虐待（疑）事例をもとに相談受理から対応の流れを知り、早期通報、相談の必要性を理解できるような内容の研修会等を開催する。 （令和7年9月～12月を予定） <p>2 ケアマネジャーや介護サービス事業所から相談してもらえる関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーや介護サービス事業所の来所等に挨拶等で顔を合わせる機会をもち、顔の見える関係の構築に取り組む。 ・広報紙に権利擁護に関する内容を掲載し、ケアマネジャーや介護サービス事業所が来所時に配布する。 必要に応じて、出前講座の周知を行う。 ・センター職員は電話相談受理時に、まず相談者の訴えを受け止めることを意識し、センター内で対応を検討して返答する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護研修会の開催状況、研修後のアンケート結果 ・相談者内訳（ケアマネジャー、介護サービス事業所等）

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第3号

【目的】高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、個々の高齢者の状況や変化に応じて、包括的かつ継続的に支援していくための地域における多職種相互の連携・協働の体制づくりや個々の介護支援専門員に対する支援を行う。

事業内容	令和6年度 活動評価																	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																
包括的継続的 ケアマネジメント 支援業務	<p>○介護支援専門員への個別支援状況（実）</p> <p style="text-align: right;">（件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース数</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>終結数</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>終結率</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		R4年度	R5年度	R6年度	ケース数	10	5	12	終結数	10	5	12	終結率	100%	100%	100%	<p>【活動目標】</p> <p>権利擁護に関する支援（虐待、生活困窮、家族支援等）を必要とする状況が発生した際、ケアマネジャーが早期に対応することができる</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーから寄せられた相談は、ケアマネジャー自身に課題があると判断できるケースや家族を含めた利用者を取り巻く環境が要因のケースがある。 ケアマネジャーが課題であるケースでは、アセスメントが不十分で状況を正確に捉えられていないことや、家族との信頼関係を十分に構築できず、支援を継続することができないケースが散見された。 令和5年度と比較して相談件数が2倍以上に増えているが、ケースの状況に疑問を持ちながらも早期に判断できず、状況が悪化してから相談に至るケースもあった。 目標としては「達成できず」と評価し、令和7年度の課題としていきたい。 権利擁護ケースに対する対応力向上のため、他職種との連携や不適切介護の理解を深める研修会を開催した。 警察との連携に関して、参加した半数のケアマネジャーが経験したことがあり、対応内容は今回研修会で検討した事例と一致するものが多く過去の対応について振り返りの機会となったと考えられる（左記a、b） 参加者の半数が警察との連携経験がなかったが事例を通して具体的対応方法や早期に相談を行う重要性を学び、アンケートでは、参加したケアマネジャー全員から「参考になった」との回答を得ることができた（左記c）。 また、研修開催後にケアマネジャーから警察との連携について相談を受け、対応したケースがあり、研修会の効果と評価できる。 不適切な介護が行われるケースでは、その状況が生じている背景の理解がポイントであることや、同じような状況が継続することで虐待の発生リスクが高まるため、家族支援も重要であることを学ぶことができた。 アンケート結果から、権利擁護に関する支援は早期対応が重要であると理解している一方で（左記e）、実際に起きると適切に判断することが難しい場合があると考えられる。 権利擁護に関する対応は、それほど頻繁に経験するものではないため（左記d）、継続的な学習が必要である。令和7年度においても、権利擁護に関する知識習得の機会を持ち、地域のケアマネジャーの実践力向上に努めていきたい。
		R4年度	R5年度	R6年度														
ケース数	10	5	12															
終結数	10	5	12															
終結率	100%	100%	100%															
<p>○圏域研修会</p> <p>①令和6年8月8日</p> <p>テーマ：他職種との連携を考える研修会</p> <p>目的：高齢者を支援する中で、中央部第1圏域では警察と連携するケースが多い。職種の理解や連携を図る時の要点について学び、ケアマネジャーの他分野との連携を促進する。</p> <p>参加者：18名</p> <p>内容：警察との連携を要する事例を用いて、ポイントや早期相談の重要性について理解を深めた。</p> <p>事例1) 認知症のある高齢者のケース</p> <p>事例2) 独居高齢者の安否確認を要するケース</p> <p>事例3) 独居高齢者が危険家屋で暮らすケース</p> <p>■アンケート結果</p> <p>a、警察と連携して対応したことがあるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ある」…50% ・「ない」…50% <p>b、これまで警察と連携して対応したケースの内容</p> <p>安否確認…5、家庭内暴力…2、特殊詐欺…1</p> <p>徘徊・保護…2、認知症・支援拒否…1</p> <p>c、警察との連携方法について参考になることはあったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「参考になった」…100% <p>②令和6年11月12日</p> <p>テーマ：不適切介護（ハイリスクケース）の理解を深める研修会</p> <p>目的：不適切介護が発生してしまう背景の理解、対応方法を学び、複雑化するケースに対する対応力の向上</p> <p>参加者：18名</p> <p>内容：・講義（不適切介護とは、不適切介護の背景、要因、不適切介護の支援方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討 <p>■アンケート結果</p> <p>d、「不適切介護」と思われるケースの対応経験はあるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ある」…50% ・「ない」…50% <p>e、不適切介護と思われる状況を確認した際、早い段階で関係者へ連絡、共有することが大切であると理解できたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「理解できた」…83% ・「もともとできていた」…17% 																		

令和7年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>ケアマネジャーが権利擁護に関する支援（虐待、生活困窮、家族支援等）を必要とする状況を適切に把握し、早期に対応することができる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 ケアマネジャーが抱える課題の把握と相談しやすい体制づくり <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の居宅介護支援事業所への訪問、懇談を実施し、事業所内の体制やケアマネジャーの業務実施状況、センターに対する意見や要望等を把握する。 ・必要に応じ、サービス担当者会議やカンファレンスへ参加する。 ・圏域研修会や懇談会、ケアマネジャーがセンターに来所した際等、顔を合わせて気軽に相談できる関係性を意識していく。 2 ケアマネジャーの相談対応、後方支援 <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防支援業務を委託する居宅介護支援事業所ごとにセンター職員を担当制とし、対応する。 ・必要に応じて相談内容をセンター内で共有し、ケアマネジャーに対するより良い支援の方向性を協議する。 ・自立支援や地域との関わり、社会資源活用の視点を取り入れたケアマネジメントを実践することができるよう、意識して支援する。 3 ケアマネジャーと地域支援者のつながりを継続的に支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ケースによって地域支援者とのつながりが必要と考えられる場合は、地域支援者およびケアマネジャー双方へ提案し、協力体制を取れるよう支援する。 4 権利擁護に関する支援、研鑽の機会を持つ <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーを対象に、事例検討会または研修会を開催し、権利擁護の考え方を学ぶ機会を設ける。 ・ケアマネジャーから受ける個別相談ケースにおいて、権利擁護に関する支援の有無や個別の地域ケア会議開催の検討等意識的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援数 ・支援に至った要因 ・支援内容 ・圏域の居宅介護支援事業所への訪問・懇談 ・ケアプランの支援内容 ・研修会開催時アンケート ・個別の地域ケア会議の開催回数、内容等

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

事業内容	令和6年度 活動評価											
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価										
<p>○令和6年度函館市地域包括支援センターケアマネジメント研修 ①令和6年10月17日 ②令和6年10月18日 テーマ：「個」を意識した情報収集と課題分析 目的：インテークからアセスメント、ケアプラン立案、実施、モニタリング、再アセスメントに至る一連の過程で必要なスキルが向上し、自立支援を意識したケアマネジメントを行うことができる。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td rowspan="2">参加数 (圏域)</td> <td></td> <td>17日</td> <td>18日</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人数</td> <td>8</td> <td>18</td> </tr> </table> <p>■アンケート結果 f、「把握した情報から、見通しを立てた課題分析ができる」について ・「もともとできていた」…18% ・「できそうである」…79% ・「あまり自信がない」…3%</p> <p>g、「f、あまり自信がない」と回答した理由 ・仮説を検証することが難しい…31% ・アセスメントを根拠に仮説を立てることが難しい…47.6% ・生活史等の背景から、考え・感情・行動の理由を推測することが難しい…45.2% ・特有の価値観を持つ方への理解が難しい…50% ・できること・できないこと・していることを分けて考えることが難しい…14.3% ・問題・課題・ニーズの区別が難しい…31%</p> <p>○圏域の居宅介護支援事業所への訪問・懇談 ・令和7年3月～4月にかけて、圏域の居宅介護支援事業所13カ所中12事業所に対し実施した。 ・各センターとの連携状況、居宅介護支援事業所の体制等について状況把握や意見交換を行った。</p>	参加数 (圏域)		17日	18日	事業所	7	8		人数	8	18	<p>【活動目標】 把握した情報から、見通しを立てた課題分析ができる</p> <p>【評価】 ・一連のケアマネジメント力向上を目的として10センター合同ケアマネジメント研修会を開催した。今回の研修会では、利用者個人を支援するためには、多角的な視点による情報収集および分析、現状だけではなく見通しを立てて支援することが重要であると学ぶことができた。研修会開催後に実施したアンケート結果から、アセスメントや見通しを立てる重要性を理解し実践できそうであるとの声が多く、目標は達成できたと評価する（左記f）。しかし、利用者特有の価値観の理解やケアマネジャーの実践力を理由に、あまり自信を持って対応できないという回答もあった（左記g）。一人でも多くのケアマネジャーが不安を解消しケアマネジメント業務に従事できるよう、より効果の高い研修会の企画、実施に努める。</p> <p>・地域のケアマネジャーとの懇談の機会として、事業所ごとに訪問を行った。事業所の体制や業務の実施状況、センターに対する意見や要望等率直に意見交換をすることができた。センターが運営上注意することや、事業実施のための参考意見を得ることができた。この事業所ごとの訪問・懇談は、地域のケアマネジャーの実態把握や意見交換できる貴重な機会であり、また、居宅介護支援事業所とセンター間の信頼関係構築にも効果があると考えられることから、毎年度継続して実施したい。</p>
参加数 (圏域)			17日	18日								
	事業所	7	8									
	人数	8	18									

令和7年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
本人や地域の強みを活かし、自立支援を意識したケアマネジメントができる	<p>1 10センター合同ケアマネジメント研修の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和7年9月18日（木）～19日（金） ・テーマ：「その人らしさ」を意識したケアプランの作成 ・研修形態：講義、演習（ハイブリット） ・内容 ①ケアプランとは ②セルフケアや社会資源の活用 ③自立支援に資するケアマネジメントについて <p>2 圏域事例検討会及び研修会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域ケアマネジャーと連携して開催する。 ・介護分野以外の専門職の参加を促し、お互いの立場を理解し、円滑に連携できる関係づくりを進めていくことができるように努める。 ・ケアマネジャー同士の横のつながり、お互いに支え合える関係の構築を支援する。 <p>3 圏域のケアマネジャーへの情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントの実践に有効と思われる研修会開催の案内や法令通知等の情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同ケアマネジメント研修開催時アンケート ・圏域事例検討会や研修会等開催時アンケート ・圏域の居宅介護支援事業所への訪問・懇談 ・基本情報、ケアプランのアセスメントや支援内容

(I) 地域ケア会議推進事業

【根拠法令】介護保険法第115条の48

【目的】地域包括ケアシステムの構築のため、地域ケア会議を開催し、介護サービスだけでなく、様々な社会資源が有機的に連携することができる環境を整備し、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう支援を行う。

事業内容	令和6年度 活動評価																					
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																				
個別ケースの検討を行う地域ケア会議	○個別ケースの検討を行う地域ケア会議	<p>【活動目標】 地域支援者、関係機関（行政、医療機関等）が認知症をもつ高齢者の状況を理解し、支援者の一員として協力することができる</p> <p>【評価】 ・関係機関が、本人や家族等の状況を知り、在宅での生活状況を知り、安心な在宅生活のためにどのような配慮や支援が必要かを協議することができた。目標は達成したと評価する。</p> <p>①行政の意見等 地域ケア会議の参加に協力的であり、行政としてできること、他活用できる制度の提案が出された。</p> <p>②医療機関の意見等 疾患の治療や悪化予防のために生活上、留意すること等の発言があった。 対象の子どもだけでなく、課題のある世帯を支援するために、医療分野の継続した関わりも必要である、との発言があった。</p> <p>③地域支援者の意見等 地域関係者だけでは支援が難しいが、専門（医療、介護等）の支援状況を把握することによって、見守りや緊急時の対応等について協力できる、との発言があった。</p> <p>・地域支援者や関係機関は、判断能力が低下した高齢者の自宅での生活状況や家族の状況を知らない、または生活に支障が出ていることに気づいていても誰かに相談せずにいることがあり、課題が複雑困難化している。 地域ケア会議を通じて、世帯の生活課題や支援の必要性等を協議し、支援者の一員として連携することは可能である。 また、同様な課題のある事例においても相談につながる事が期待できる。</p>																				
	①開催状況																					
	(回)																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標数値</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>開催回数</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>117%</td> <td>117%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>			R4年度	R5年度	R6年度	目標数値	6	6	5	開催回数	7	7	5	達成率	117%	117%	100%				
			R4年度	R5年度	R6年度																	
	目標数値		6	6	5																	
	開催回数		7	7	5																	
	達成率		117%	117%	100%																	
	②参集者（人）																					
	民生委員（4）、町会役員（2）、在宅福祉委員（1） 主任児童委員（1） 介護支援専門員（4）、介護サービス事業所（4）、 医療機関（1）、行政（5）、警察（2）																					
③検討した個別課題																						
<table border="1"> <tbody> <tr><td>日常生活に関する課題</td><td>3</td></tr> <tr><td>認知症や精神疾患による問題行動</td><td>2</td></tr> <tr><td>健康管理に関する課題</td><td>4</td></tr> <tr><td>サービス利用に関する課題</td><td>1</td></tr> <tr><td>経済面の課題</td><td>3</td></tr> <tr><td>家族の課題</td><td>2</td></tr> <tr><td>支援者との関係に関する課題</td><td>0</td></tr> <tr><td>地域との関係についての課題</td><td>0</td></tr> <tr><td>その他</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	日常生活に関する課題	3	認知症や精神疾患による問題行動	2	健康管理に関する課題	4	サービス利用に関する課題	1	経済面の課題	3	家族の課題	2	支援者との関係に関する課題	0	地域との関係についての課題	0	その他	2				
日常生活に関する課題	3																					
認知症や精神疾患による問題行動	2																					
健康管理に関する課題	4																					
サービス利用に関する課題	1																					
経済面の課題	3																					
家族の課題	2																					
支援者との関係に関する課題	0																					
地域との関係についての課題	0																					
その他	2																					
④検討した支援内容																						
<table border="1"> <tbody> <tr><td>地域における見守り体制の構築</td><td>5</td></tr> <tr><td>関係機関における見守り体制および支援体制の構築</td><td>4</td></tr> <tr><td>サービス等利用調整</td><td>3</td></tr> <tr><td>サービス・制度等の拡充</td><td>1</td></tr> <tr><td>地域住民への周知</td><td>0</td></tr> <tr><td>家族への支援</td><td>2</td></tr> <tr><td>健康管理に関する支援</td><td>2</td></tr> <tr><td>関係機関のネットワーク構築</td><td>3</td></tr> <tr><td>地域のネットワーク構築</td><td>0</td></tr> <tr><td>地域づくり</td><td>0</td></tr> <tr><td>その他</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	地域における見守り体制の構築	5	関係機関における見守り体制および支援体制の構築	4	サービス等利用調整	3	サービス・制度等の拡充	1	地域住民への周知	0	家族への支援	2	健康管理に関する支援	2	関係機関のネットワーク構築	3	地域のネットワーク構築	0	地域づくり	0	その他	1
地域における見守り体制の構築	5																					
関係機関における見守り体制および支援体制の構築	4																					
サービス等利用調整	3																					
サービス・制度等の拡充	1																					
地域住民への周知	0																					
家族への支援	2																					
健康管理に関する支援	2																					
関係機関のネットワーク構築	3																					
地域のネットワーク構築	0																					
地域づくり	0																					
その他	1																					
⑤把握した地域課題																						
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症状態悪化による「火の始末」が課題となる。 緊急通報システムの設置、調理機器取り換え、見守り強化等の支援をしたことにより、1年以上在宅生活を続けることができた。 ・主介護者が未成年であり、負債整理や在宅生活の継続が課題となる。地域、介護、医療、教育、行政等の関係機関が状況を共有したことにより、世帯への配慮と今後の支援の連携の必要性を確認する。 ・認知症等の高齢者と介護家族（高齢者、障害者等）が、地域や関係機関の見守りの中で生活することによって、高齢者虐待の発生予防、又は虐待発生早期把握、対応ができる。 																						

令和7年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>地域支援者や関係機関（行政、医療機関等）が認知症をもつ高齢者や家族の状況等を相談し、支援者の一員として連携した支援に取り組むことができる</p>	<p>1 高齢者等に必要な支援（個別ケース）について検討する地域ケア会議</p> <p>【内 容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援者、関係機関が、認知症を正しく理解し、支援を必要とする高齢者等について相談機関と支援の方向性や役割分担等を協議する。 <p>※地域支援者や関係機関は、今後、支援の必要な高齢者等に気づくことが増え、早期相談に至ることが期待できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数と計画達成率 ・検討した個別課題 ・検討した支援内容 ・発見した地域課題 ・参加者状況

(I) 地域ケア会議推進事業

事業内容	令和6年度 活動評価																																						
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																					
地域課題の 検討を行う 地域ケア会 議	<p>○地域課題の検討を行う地域ケア会議</p> <p>①開催状況</p> <p style="text-align: right;">(回)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標数値</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>開催回数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>②テーマ、参加機関、今後の方向性</p> <p>1) 令和6年6月25日</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">テーマ</td> <td>中部カフェ「みんなのふれあい広場（案）」の開催にむけて</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>・中部カフェ企画委員（2人） ・中部小学校PTA（3人）、教員（2人） ・中部小学校 地域コーディネーター ・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>中部小学校</td> </tr> <tr> <td>検討内容</td> <td>①話題提供 「中部カフェの活動状況と今後の取り組み」 ・中部小学校PTA会長 ・中部小地域コーディネーター ②全体ワーク 「多世代交流の場「みんなのふれあい広場（案）」の開催にむけて</td> </tr> <tr> <td>今後の方向性</td> <td>○中部小学校PTAと中部カフェ企画委員会が協働し校区6町会・民生委員等の協力を得ながら、令和6年度に「みんなのふれあい広場（案）」を開催する。 ○ふれあい広場プロジェクト会議の開催</td> </tr> </table> <p>2) 令和6年12月2日</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">テーマ</td> <td>中部カフェ「みんなのふれあい広場」と多世代のつながり</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>・中部カフェ企画委員（6人） ・中部小学校PTA（3人）、教員（1人） ・中部小学校 地域コーディネーター ・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>特別養護老人ホーム倶有</td> </tr> <tr> <td>検討内容</td> <td>①令和6年11月23日「みんなのふれあい広場～みんなで遊防祭（あそぼうさい）～」の開催状況・評価課題 ②「みんなのふれあい広場」開催継続について</td> </tr> <tr> <td>今後の方向性</td> <td>○令和7年度も同様規模で検討する ○主催は「中部小学校区地域みんなのケア会議」構成機関とする。 ○会場が決定次第、プロジェクト会議を開催し、検討する。</td> </tr> </table>			R4年度	R5年度	R6年度	目標数値	3	3	3	開催回数	3	3	3	達成率	100%	100%	100%	テーマ	中部カフェ「みんなのふれあい広場（案）」の開催にむけて	参加者	・中部カフェ企画委員（2人） ・中部小学校PTA（3人）、教員（2人） ・中部小学校 地域コーディネーター ・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター	会場	中部小学校	検討内容	①話題提供 「中部カフェの活動状況と今後の取り組み」 ・中部小学校PTA会長 ・中部小地域コーディネーター ②全体ワーク 「多世代交流の場「みんなのふれあい広場（案）」の開催にむけて	今後の方向性	○中部小学校PTAと中部カフェ企画委員会が協働し校区6町会・民生委員等の協力を得ながら、令和6年度に「みんなのふれあい広場（案）」を開催する。 ○ふれあい広場プロジェクト会議の開催	テーマ	中部カフェ「みんなのふれあい広場」と多世代のつながり	参加者	・中部カフェ企画委員（6人） ・中部小学校PTA（3人）、教員（1人） ・中部小学校 地域コーディネーター ・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター	会場	特別養護老人ホーム倶有	検討内容	①令和6年11月23日「みんなのふれあい広場～みんなで遊防祭（あそぼうさい）～」の開催状況・評価課題 ②「みんなのふれあい広場」開催継続について	今後の方向性	○令和7年度も同様規模で検討する ○主催は「中部小学校区地域みんなのケア会議」構成機関とする。 ○会場が決定次第、プロジェクト会議を開催し、検討する。	<p>【活動目標】</p> <p>高齢者のニーズにあった地域活動の展開について検討できる</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を含む多世代交流の場「中部カフェ～みんなのふれあい広場～」(以下、「中部カフェ」という。)の計画、開催、評価等を通じ、高齢者のニーズや取り組みの効果について検討することができた。目標は達成したと評価する。 ・地域活動を継続するためには、地域住民へ積極的な周知や担い手の負担軽減、協力機関の増加、活動費用の確保等を検討する必要がある。 ・高齢者等の孤立防止・フレイル予防のために「中部カフェ」、「サロン」等の地域活動に参加することで効果が得られると考える。 ・住民主体の活動に取り組む「サロン」では登録者の変動はほぼないが、リーダーにかかる負担や活動意欲の低下、地域への周知不足等のため今後の参加継続に不安を感じているメンバーもいる。 メンバー同士の情報、意見交換の機会があることでサロン活動等の参加意欲を持続けることに期待がもてると考える。
		R4年度	R5年度	R6年度																																			
	目標数値	3	3	3																																			
	開催回数	3	3	3																																			
	達成率	100%	100%	100%																																			
	テーマ	中部カフェ「みんなのふれあい広場（案）」の開催にむけて																																					
	参加者	・中部カフェ企画委員（2人） ・中部小学校PTA（3人）、教員（2人） ・中部小学校 地域コーディネーター ・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター																																					
	会場	中部小学校																																					
	検討内容	①話題提供 「中部カフェの活動状況と今後の取り組み」 ・中部小学校PTA会長 ・中部小地域コーディネーター ②全体ワーク 「多世代交流の場「みんなのふれあい広場（案）」の開催にむけて																																					
	今後の方向性	○中部小学校PTAと中部カフェ企画委員会が協働し校区6町会・民生委員等の協力を得ながら、令和6年度に「みんなのふれあい広場（案）」を開催する。 ○ふれあい広場プロジェクト会議の開催																																					
テーマ	中部カフェ「みんなのふれあい広場」と多世代のつながり																																						
参加者	・中部カフェ企画委員（6人） ・中部小学校PTA（3人）、教員（1人） ・中部小学校 地域コーディネーター ・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター																																						
会場	特別養護老人ホーム倶有																																						
検討内容	①令和6年11月23日「みんなのふれあい広場～みんなで遊防祭（あそぼうさい）～」の開催状況・評価課題 ②「みんなのふれあい広場」開催継続について																																						
今後の方向性	○令和7年度も同様規模で検討する ○主催は「中部小学校区地域みんなのケア会議」構成機関とする。 ○会場が決定次第、プロジェクト会議を開催し、検討する。																																						

令和7年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
高齢者のニーズにあった地域活動の継続について検討できる	<p>1 地域課題の検討を行う地域ケア会議</p> <p>【テーマ】 「中部カフェの現状と今後について」</p> <p>【参集者】 地域住民、地域支援者、中部カフェ企画委員会、学校PTA、地域コーディネーター、学校運営協議会、福祉施設・事業所、民間企業、警察、学生 等</p> <p>【内 容】 ・高齢者等の孤立を防ぎ、高齢者を含む多世代が興味をもって参加する「中部カフェ」の現状、課題について共有する。 ・中部カフェの継続に向け、今後の取り組みについて協議する。</p> <p>【テーマ】 「サロンの現状とこれから」</p> <p>【参集者】 サロン等メンバー、地域住民、地域支援者、地域リハビリテーション関係機関（セラピスト、栄養士、歯科衛生士等）</p> <p>【内 容】 ・「サロン」の現状・課題等を報告し、共有する。 ・サロンの継続に向け、今後の取り組みについて協議する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数と計画達成率 ・検討した地域課題 ・検討した支援内容 ・地域づくり、資源開発への発展の有無 ・「集い場」の参加状況

(I) 地域ケア会議推進事業

事業内容	令和6年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
地域課題の 検討を行う 地域ケア会 議	3) 令和6年11月6日	
	テーマ	市営住宅の現状と課題について ～令和6年度の見守り訪問状況から～
	参加者	民生委員4人、在宅福祉委員1人、 ケアマネジャー1人、介護サービス事業所1人 行政/生活支援課、地域包括ケア推進課4人 有料老人ホーム1人、障害サービス事業所1人 自立相談支援機関2人、第2層生活支援コー ディネーター
	会場	救護施設 明和園
	検討内容	① 話題提供 令和6年度市営団地の見守り訪問状況につい て（民生委員と包括職員の同行訪問） ② グループワーク 「要援護者の把握」と「見守り合い」の手 立てについて
今後の 方向性	① 行政、地域支援者の協力により、市営住宅 の要援護者の抽出を行い、民生委員とセン ター職員による訪問を定期的に継続する。 ② 障害サービス事業所が主催するイベントに 関係機関が協力する。市営住宅住民等に周 知し、参加をを促す。 ③ 既存の社会資源（施設での移動販売等）の 周知をし、利用、参加を促す。	
		<p>【活動目標】 地域支援者と関係機関が連携し、支援を必要とする高齢者の早期把握や見守り体制について検討できる</p> <p>【評 価】 ・ 民生委員とセンター職員が、市営住宅に在住する高齢者等（相談・支援機関につながっていない世帯）の訪問をした状況から、見守り訪問の継続や、市営住宅住民が興味をもって参加できる「集い場」等が地域に必要であることを協議した。目標は達成したと評価する。</p> <p>・ 「近所に興味関心のある集い場があれば参加したい」という地域住民の声があった。高齢者等が孤立せず互いに見守り合い、また、支援が必要になった場合に早期に気づくことができるよう、地域の「集い場」づくりについて検討することが必要である。</p>

令和7年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
高齢者のニーズにあった地域活動の場づくりについて検討できる	<p>1 地域課題の検討を行う地域ケア会議</p> <p>【テーマ】 「地域住民（高齢者を含む）がつながる多世代交流型の集い場づくり」</p> <p>【参集者】 地域住民、地域支援者、福祉介護施設・事業所、学校運営協議会、地域コーディネーター、地域の関係機関、民間企業、行政 等</p> <p>【内 容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等が参加でき、健康づくりや生きがい活動になり得る集い場について検討する。 ・高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らして行く上で課題となっていることを共有し、多世代、関係機関が協力し合い、取り組めることについて協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数と計画達成率 ・検討した地域課題 ・検討した支援内容 ・地域づくり、資源開発への発展の有無 ・「集い場」の参加状況

イ 生活支援体制整備事業

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第5号

【目的】地域における住民主体の助け合い活動を促進する仕組みおよび高齢者の社会参加を促進する仕組みの創出ならびに充実を行う。

事業内容	令和6年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
<p>第2層生活支援 コーディネーター業務</p> <p>1 地域支援者、関係機関との連携</p> <p>① まちづくり懇談会</p> <p>1)令和6年5月30日 参加者：中部小教員、地域コーディネーター テーマ：学校、家庭、地域の交流について</p> <p>2)令和6年6月21日 参加者：中部小PTA、地域コーディネーター、民児協 テーマ：学校PTAと地域の多世代交流</p> <p>3)令和6年7月3日 参加者：大森浜小地域コーディネーター テーマ：学校と地域のつながり、学校運営協議会活動</p> <p>4)令和6年8月20日 参加者：松川町会 テーマ：松川町の今後の地域活動、センターとの連携</p> <p>5)令和6年9月2日 参加者：北星小地域コーディネーター テーマ：学校PTAと地域がつながる取り組み</p> <p>6)令和6年2月14日 参加者：自衛隊函館地方協力本部、中部カフェ企画委員会 テーマ：地域住民による防災活動について</p> <p>7)令和6年10月4日 参加者：救護施設説明和園 テーマ：救護施設とセンターの連携について</p> <p>8)令和6年10月11日 参加者：函館地区保護司会 テーマ：函館地区保護司会とセンターの連携について</p> <p>② 町会・地域・学校行事等への参加</p> <p>1)令和6年7月7日 みんなつながるフェスティバス 第5方面民児協、北星小、学校運営協議会</p> <p>2)令和6年7月14日 第22回虹と夢まつり 就労支援事業所 虹と夢</p> <p>3)令和6年7月22日、12月19日 巴中学校区夏季(冬季) 校外生活委員会 巴中、大森浜小、中部小、中島小、北星小、柏野小、 第5・9・11方面民児協、校区町会、関係機関</p> <p>4)令和6年9月5日 北星小1日防災学校 北星小、第5方面民児協、校区町会、市教育委員会、 市総務部</p>	<p>【活動目標】 高齢者等が参加する地域活動の展開について検討できる</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中部カフェ(高齢者を含む多世代交流の場)の計画、開催、評価等を通じ高齢者ニーズや取り組みの効果について検討することができた。目標は達成したと評価する。 令和5年度に立ち上がった「中部カフェ企画委員会」が、教育機関(教員、学校PTA)へ「多世代交流型の集い場づくり」の提案をした。学校PTAは、「中部カフェ」をPTA単独で再開することは難しいが、中部カフェ企画委員会と協働し、取り組むことに賛同した。子どもも大人(高齢者を含む)も、興味や関心をもち、参加、交流できる内容等を検討した。学校PTAや中部カフェ企画委員自身も、無理をせず、楽しめる実行可能なものにしていくことを意識した。 参加者からは、「今後も参加したい」「担い手として協力したい」との声が聞かれた。一方、「開催場所や周知等に工夫が必要ではないか」との意見が出ていた。 中部カフェ企画委員会では、活動に負担を感じたり、活動経費の確保に課題があるため、「現状のまま活動を継続することは難しいのではないか」との意見が出ていた。 地域活動を継続するためには、住民へ積極的な周知、担い手の負担軽減や協力機関の増加、活動費用の確保等を検討する必要がある。 	

令和7年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>高齢者のニーズにあった地域活動の継続について検討できる</p>	<p>1 懇談会、行事参加、出前講座等を行い、助け合いや社会参加状況について話題にし、地域活動の内容・効果的な周知について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり懇談会（町会、関係機関、学校等） ・民児協定例会への参加 ・町会、商店街組合等の行事へ参加 ・運営推進会議の出席 ・出前講座の開催 <p>2 地域課題の検討を行う地域ケア会議</p> <p>【テーマ】 「中部カフェの現状と今後について」</p> <p>【参集者】 地域住民、地域支援者、中部カフェ企画委員会、学校PTA、地域コーディネーター、学校運営協議会、福祉施設・事業所、民間企業、警察、学生 等</p> <p>【内 容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等の孤立を防ぎ、高齢者を含む多世代が興味をもって参加する中部カフェの現状、課題（住民へ積極的な周知、担い手の負担軽減や協力機関の増加、活動費用の確保等）について共有する。 ・中部カフェの継続に向け、今後の取り組みについて協議する。 <p>3 中部カフェ企画委員会の開催</p> <p>4 「中部カフェ」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や町会館を会場として、各1回開催予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載内容 ・配布先 ・懇談会等の開催回数及び内容 ・地域住民の声 <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数と計画達成率 ・検討した地域課題 ・検討した支援内容 ・参加者状況 ・集い場の活動状況 <ul style="list-style-type: none"> ・中部カフェ、中部カフェ企画委員会の開催回数と内容 ・中部カフェの参加者状況 ・中部カフェ参加者アンケート

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和6年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
第2層生活支援 コーディネーター業務	2 第2層協議体による会議	
	1) 令和6年6月25日	
	テーマ	中部カフェ「みんなのふれあい広場（案）」の開催にむけて
	参加者	・中部カフェ企画委員（2人） ・中部小学校PTA（3人）、教員（2人） ・中部小学校 地域コーディネーター ・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター
	会場	中部小学校
	検討内容	①話題提供 「中部カフェの活動状況と今後の取り組み」 ・中部小学校PTA会長 ・中部小地域コーディネーター ②全体ワーク 「多世代交流の場'みんなのふれあい広場（案）」の開催にむけて
	今後の方向性	○中部小学校PTAと中部カフェ企画委員会が協働し校区6町会・民生委員等の協力を得ながら、令和6年度に「みんなのふれあい広場（案）」を開催する。 ○ふれあい広場プロジェクト会議の開催
	2) 令和6年12月2日	
	テーマ	中部カフェ「みんなのふれあい広場」と多世代のつながり
	参加者	・中部カフェ企画委員（6人） ・中部小学校PTA（3人）、教員（1人） ・中部小学校 地域コーディネーター ・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター
会場	特別養護老人ホーム俱有	
検討内容	①令和6年11月23日「みんなのふれあい広場～みんなで遊防祭（あそぼうさい）～」の開催状況・評価課題 ②「みんなのふれあい広場」開催継続について	
今後の方向性	○令和7年度も同様規模で検討する ○主催は「中部小学校区地域みんなのケア会議」構成機関とする。 ○会場が決定し次第、プロジェクト会議を開催し検討する。	

令和7年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和6年度 活動評価											
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価										
第2層生活支援 コーディネーター業務	<p>3) 令和6年11月6日</p> <table border="1"> <tr> <td>テーマ</td> <td>市営住宅の現状と課題について ～令和6年度の見守り訪問状況から～</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>民生委員4人、在宅福祉委員1人、ケアマネジャー1人、介護サービス事業所1人、行政/生活支援課、地域包括ケア推進課4人、高齢者施設1人、障害サービス事業所1人、自立相談支援機関2人、第2層生活支援コーディネーター</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>救護施設 明和園</td> </tr> <tr> <td>検討内容</td> <td>① 話題提供：市営団地の見守り訪問状況について (民生委員とセンター職員の同行訪問) ② グループワーク：「要援護者の把握」と「見守り合い」の手立てについて</td> </tr> <tr> <td>今後の方向性</td> <td>① 行政、地域支援者の協力により、市営住宅の要援護者の抽出を行い、民生委員とセンター職員による訪問を定期的に継続する。 ② 障害サービス事業所が主催するイベントに 関係機関が協力する。市営住宅住民等に周知し、参加をを促す。 ③ 既存の社会資源（施設での移動販売等）の周知をし、利用、参加を促す。</td> </tr> </table>	テーマ	市営住宅の現状と課題について ～令和6年度の見守り訪問状況から～	参加者	民生委員4人、在宅福祉委員1人、ケアマネジャー1人、介護サービス事業所1人、行政/生活支援課、地域包括ケア推進課4人、高齢者施設1人、障害サービス事業所1人、自立相談支援機関2人、第2層生活支援コーディネーター	会場	救護施設 明和園	検討内容	① 話題提供：市営団地の見守り訪問状況について (民生委員とセンター職員の同行訪問) ② グループワーク：「要援護者の把握」と「見守り合い」の手立てについて	今後の方向性	① 行政、地域支援者の協力により、市営住宅の要援護者の抽出を行い、民生委員とセンター職員による訪問を定期的に継続する。 ② 障害サービス事業所が主催するイベントに 関係機関が協力する。市営住宅住民等に周知し、参加をを促す。 ③ 既存の社会資源（施設での移動販売等）の周知をし、利用、参加を促す。	<p>【活動目標】</p> <p>地域支援者と関係機関が連携し、支援を必要とする高齢者の早期把握や見守り体制について検討できる</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員とセンター職員が、市営住宅に在住する高齢者等（相談・支援機関につながっていない世帯）の訪問をした状況から、見守り訪問の継続や市営住宅住民が興味をもって参加できる集い場等が地域に必要であることを協議した。目標は達成したと評価する。 上記の訪問では、要援護状態であってもSOSを出さない（出せない）、どこに相談してよいかわからない、支援が必要と気づいていても声がけや相談をしない等の状況にあることが把握された。また、自治会主催のカラオケ会やレクリエーション等への参加者が減少していることもわかった。 自治会や民生委員だけでは、見守りや自治会行事を企画することが難しい。今後は、民生委員とセンター職員の同行訪問を総合相談事業の中で継続する。 「近所に興味関心のある集い場があれば参加したい」という地域住民の声があった。高齢者等が孤立せず互いに見守り合い、また、支援が必要になった場合に早期に気づくことができるよう、地域の「集い場」づくりについて検討することが必要である。
	テーマ	市営住宅の現状と課題について ～令和6年度の見守り訪問状況から～										
参加者	民生委員4人、在宅福祉委員1人、ケアマネジャー1人、介護サービス事業所1人、行政/生活支援課、地域包括ケア推進課4人、高齢者施設1人、障害サービス事業所1人、自立相談支援機関2人、第2層生活支援コーディネーター											
会場	救護施設 明和園											
検討内容	① 話題提供：市営団地の見守り訪問状況について (民生委員とセンター職員の同行訪問) ② グループワーク：「要援護者の把握」と「見守り合い」の手立てについて											
今後の方向性	① 行政、地域支援者の協力により、市営住宅の要援護者の抽出を行い、民生委員とセンター職員による訪問を定期的に継続する。 ② 障害サービス事業所が主催するイベントに 関係機関が協力する。市営住宅住民等に周知し、参加をを促す。 ③ 既存の社会資源（施設での移動販売等）の周知をし、利用、参加を促す。											
	<p>3 「中部カフェ企画委員会」及び「中部カフェの開催」</p> <p>① 中部カフェ企画委員会（全16回）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年4月20日 通常総会、第6回委員会 令和6年 6月 1日 第7回委員会 令和6年 7月13日 第8回委員会 令和6年 7月25日 第9回委員会 令和6年 7月30日 第10回委員会 令和6年 8月20日 第11回委員会 令和6年 8月26日 第12回委員会 令和6年 9月 9日 第13回委員会 令和6年 9月27日 第14回委員会 令和6年10月 4日 第15回委員会 令和6年10月17日 第16回委員会 令和6年11月14日 第17回委員会 令和6年12月16日 第18回委員会 令和7年 1月14日 第19回委員会 令和7年 3月13日 第20回委員会 令和7年 3月30日 第21回委員会 <p>※第9,12,14,15,16,17回委員会は、「みんなのふれあい広場プロジェクト会議」とし、学校PTAや教員が参加</p> <p>② 第3回 中部カフェの開催 「みんなのふれあい広場～みんなで遊防祭～」</p> <table border="1"> <tr> <td>日時</td> <td>令和6年11月23日（土）10時～14時</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>総合福祉センターあいよる</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>参加者 186人 ※申込者：235人 (3歳～小学生60人、大人126人)</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>・受付（スタンプラリーカード配布） ・アクティビティ、防災食ブース（ストラックアウト、防災・防犯ブース、バラスポーツ体験、綿あめ作り体験、プランパン、スライム作り） ・アンケート、お土産配布（防災食等）</td> </tr> </table>	日時	令和6年11月23日（土）10時～14時	会場	総合福祉センターあいよる	参加者	参加者 186人 ※申込者：235人 (3歳～小学生60人、大人126人)	内容	・受付（スタンプラリーカード配布） ・アクティビティ、防災食ブース（ストラックアウト、防災・防犯ブース、バラスポーツ体験、綿あめ作り体験、プランパン、スライム作り） ・アンケート、お土産配布（防災食等）			
日時	令和6年11月23日（土）10時～14時											
会場	総合福祉センターあいよる											
参加者	参加者 186人 ※申込者：235人 (3歳～小学生60人、大人126人)											
内容	・受付（スタンプラリーカード配布） ・アクティビティ、防災食ブース（ストラックアウト、防災・防犯ブース、バラスポーツ体験、綿あめ作り体験、プランパン、スライム作り） ・アンケート、お土産配布（防災食等）											

令和7年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
地域住民や関係機関等が高齢者のニーズにあった地域活動の場づくりについて検討できる	<p>1 地域課題の検討を行う地域ケア会議</p> <p>【テーマ】 「地域住民（高齢者を含む）がつながる多世代交流型の集い場づくり」</p> <p>【参集者】 地域住民、地域支援者、福祉介護施設・事業所、学校運営協議会、地域コーディネーター、地域の関係機関、民間企業、行政 等</p> <p>【内 容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等が参加でき、健康づくりや生きがい活動になり得る集い場について検討する。 ・高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていく上で課題となっていることを共有し、多世代、関係機関が協力し合い取り組めることについて協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数と計画達成率 ・検討した地域課題 ・検討した支援内容 ・地域づくり、資源開発への発展の有無

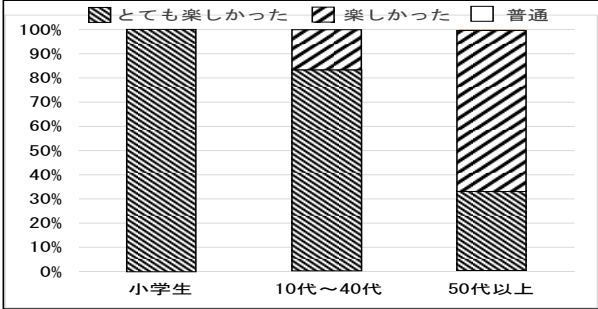
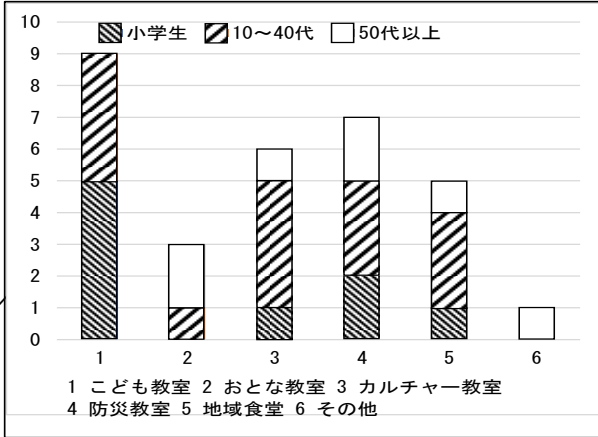
(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和6年度 活動評価											
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価										
第2層生活支援 コーディネーター業務	【参加者アンケートの結果】											
	1) アンケート回答状況											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小学生</th> <th>10～20代</th> <th>30～40代</th> <th>50～60代</th> <th>70以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>42人</td> <td>4人</td> <td>44人</td> <td>14人</td> <td>21人</td> </tr> </tbody> </table>		小学生	10～20代	30～40代	50～60代	70以上	42人	4人	44人	14人	21人
	小学生	10～20代	30～40代	50～60代	70以上							
	42人	4人	44人	14人	21人							
	2) 参加の感想											
3) 参加してよかったブース（複数回答・人）												
4) 今後希望する内容（複数回答・人）												
6) 「みんなのふれあい広場」の感想・意見												
<ul style="list-style-type: none"> ・次回以降も参加したい（111人） ・企画、準備のお手伝いをしたい（15人） （小学生5人、20代1人、30～40代4人、50～60代1人、70代以上4人） ・その他 「バラエティに富んだブースでためになりました。」 「年齢問わず参加者がいて有意義である」 「スタッフの方々、準備お疲れ様でした。」 												

令和7年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和6年度 活動評価																		
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																	
<p>③第4回中部カフェの開催 まちのみんなで「ちらし寿司ケーキ作っちゃおう！」</p> <table border="1"> <tr> <td>日時</td> <td>令和7年3月30日（日）10時30分～14時</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>総合福祉センターあいよる</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>40人 (3歳～小学生13人、大人27人)</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>・物づくり体験 雑紙入れ袋（市環境部 出前講座）、紙皿折り紙、みんなのふれあい広場「ゆるキャラ描こう」 ・「ちらし寿司ケーキ」作って、食べよう</td> </tr> </table> <p>【参加者アンケートの結果】</p> <p>1) アンケート回答状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>小学生以下</th> <th>10～20代</th> <th>30～40代</th> <th>50～60代</th> <th>70以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 参加の感想</p>  <p>3) 中部カフェで興味ある内容(複数回答・人)</p>  <p>4) 中部カフェの企画・準備の協力、ボランティア活動に関心がある。 氏名、連絡先を記入した人 2人（60代）</p>	日時	令和7年3月30日（日）10時30分～14時	会場	総合福祉センターあいよる	参加者	40人 (3歳～小学生13人、大人27人)	内容	・物づくり体験 雑紙入れ袋（市環境部 出前講座）、紙皿折り紙、みんなのふれあい広場「ゆるキャラ描こう」 ・「ちらし寿司ケーキ」作って、食べよう	小学生以下	10～20代	30～40代	50～60代	70以上	9人	3人	3人	2人	1人	
日時	令和7年3月30日（日）10時30分～14時																		
会場	総合福祉センターあいよる																		
参加者	40人 (3歳～小学生13人、大人27人)																		
内容	・物づくり体験 雑紙入れ袋（市環境部 出前講座）、紙皿折り紙、みんなのふれあい広場「ゆるキャラ描こう」 ・「ちらし寿司ケーキ」作って、食べよう																		
小学生以下	10～20代	30～40代	50～60代	70以上															
9人	3人	3人	2人	1人															

第2層生活支援
コーディネーター業務

令和7年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和6年度 活動評価																																																																																																											
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																																																																										
第2層生活支援 コーディネーター業務	<p>4 社会参加や助け合い活動の重要性の周知</p> <p>①広報紙、リーフレットの作成・配布 ・広報紙の作成3回（令和6年6月、12月、令和7年3月）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機関名</th> <th colspan="2">機関数</th> <th rowspan="2">機関名</th> <th colspan="2">機関数</th> </tr> <tr> <th></th> <th>新規（再）</th> <th></th> <th>新規（再）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民児協</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>警察署・交番</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>町会・自治会</td> <td>18</td> <td>0</td> <td>自動車学校・試験場</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>公共施設</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>銭湯</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>薬局</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>ホテル</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>28</td> <td>0</td> <td>集合住宅</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>整骨院</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>ボランティア</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>郵便局</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>施設</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>金融機関</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>障がい事業所</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>スーパーマーケット</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>NPO法人</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ドラッグストア</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>新聞店</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コンビニエンスストア</td> <td>20</td> <td>0</td> <td>個人商店</td> <td>9</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>学校・学童</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>民間会社</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>②ネットワーク構築</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>回数</th> <th>機関等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>懇談会</td> <td>8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>町会・地域 学校行事等</td> <td>7</td> <td>詳細は1-①②を参照</td> </tr> <tr> <td>民児協定例会</td> <td>8</td> <td>第4、5、8、9方面</td> </tr> <tr> <td>在宅ふれあい事業</td> <td>1</td> <td>海岸町</td> </tr> <tr> <td>運営推進協議会</td> <td>37</td> <td>圏域の地域密着型サービス事業所</td> </tr> <tr> <td>出前講座</td> <td>6</td> <td>海岸町、元気サロン、北星小学校</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター養成講座</td> <td>3</td> <td>社会福祉協議会 大森浜小、北星小</td> </tr> </tbody> </table>	機関名	機関数		機関名	機関数			新規（再）		新規（再）	民児協	4	0	警察署・交番	5	0	町会・自治会	18	0	自動車学校・試験場	2	0	公共施設	10	4	銭湯	2	0	薬局	10	0	ホテル	1	0	医療機関	28	0	集合住宅	3	0	整骨院	1	0	ボランティア	2	0	郵便局	8	0	施設	3	0	金融機関	4	0	障がい事業所	3	0	スーパーマーケット	6	0	NPO法人	2	0	ドラッグストア	6	0	新聞店	2	0	コンビニエンスストア	20	0	個人商店	9	1	学校・学童	6	1	民間会社	3	1	種別	回数	機関等	懇談会	8		町会・地域 学校行事等	7	詳細は1-①②を参照	民児協定例会	8	第4、5、8、9方面	在宅ふれあい事業	1	海岸町	運営推進協議会	37	圏域の地域密着型サービス事業所	出前講座	6	海岸町、元気サロン、北星小学校	認知症サポーター養成講座	3	社会福祉協議会 大森浜小、北星小	<p>【活動目標】 地域住民（特に高齢者等）や関係機関が、支え合い活動に関心を持ち、身近にある地域活動の場へ参加する人が増える</p> <p>【評価】 ・中部カフェ開催当日に、広報紙やリーフレットを配布した。アンケートでは年代問わず、「楽しかった」、「また、参加したい」との回答が多かったが、高齢者等の全体に占める参加割合（スタッフ除く）は低かった。 活動目標は一部達成したと評価する。</p> <p>・身近な地域活動や助け合い活動について、広報紙やリーフレット配布、SNSを活用し周知を図った。</p> <p>・町会行事や地域活動等では、周知方法に課題があることを聞いた。ある参加者からは「町回覧を見ていない人や、そもそも町会に入っておらず情報が届かない人が沢山いる。」との声があった。 そのため、より多くの地域住民（特に高齢者）が、地域活動を知ることができるような周知の仕方が課題である。</p>
	機関名		機関数			機関名	機関数																																																																																																					
		新規（再）		新規（再）																																																																																																								
民児協	4	0	警察署・交番	5	0																																																																																																							
町会・自治会	18	0	自動車学校・試験場	2	0																																																																																																							
公共施設	10	4	銭湯	2	0																																																																																																							
薬局	10	0	ホテル	1	0																																																																																																							
医療機関	28	0	集合住宅	3	0																																																																																																							
整骨院	1	0	ボランティア	2	0																																																																																																							
郵便局	8	0	施設	3	0																																																																																																							
金融機関	4	0	障がい事業所	3	0																																																																																																							
スーパーマーケット	6	0	NPO法人	2	0																																																																																																							
ドラッグストア	6	0	新聞店	2	0																																																																																																							
コンビニエンスストア	20	0	個人商店	9	1																																																																																																							
学校・学童	6	1	民間会社	3	1																																																																																																							
種別	回数	機関等																																																																																																										
懇談会	8																																																																																																											
町会・地域 学校行事等	7	詳細は1-①②を参照																																																																																																										
民児協定例会	8	第4、5、8、9方面																																																																																																										
在宅ふれあい事業	1	海岸町																																																																																																										
運営推進協議会	37	圏域の地域密着型サービス事業所																																																																																																										
出前講座	6	海岸町、元気サロン、北星小学校																																																																																																										
認知症サポーター養成講座	3	社会福祉協議会 大森浜小、北星小																																																																																																										
	<p>5 サロンの継続支援</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>後方支援（出前講座）/回</th> <th>R6年度内参加者の増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松風</td> <td>9（0）</td> <td>4人→4人</td> </tr> <tr> <td>千代台</td> <td>0（3）</td> <td>12人→12人</td> </tr> <tr> <td>金堀広野</td> <td>2（0）</td> <td>10人→10人</td> </tr> <tr> <td>堀川</td> <td>5（0）</td> <td>21人→21人</td> </tr> <tr> <td>新川</td> <td>8（1）</td> <td>9人→9人</td> </tr> <tr> <td>千歳</td> <td>5（0）</td> <td>8人→9人</td> </tr> <tr> <td>大縄</td> <td>2（0）</td> <td>11人→10人</td> </tr> <tr> <td>上新川</td> <td>1（0）</td> <td>7人→7人</td> </tr> <tr> <td>若松</td> <td>3（0）</td> <td>15人→15人</td> </tr> <tr> <td>的場</td> <td colspan="2">（休止中）</td> </tr> </tbody> </table> <p>○サロン登録者数（令和7年3月末現在） 97人</p> <p>○後方支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター職員による運動指導、ミニ講話 ・地域リハビリテーション活動支援事業の活用 ・医療機関による地域づくり支援活動 ・外部講師の調整 <p>○健康アンケート状況（年度内2回実施） アンケート回答者 51人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康習慣の心がけにより生活習慣病は予防できると思える。」 （年度初め）36人→（年度末）38人 ・「有酸素運動を週3回以上行っている。」 （年度初め）17人→（年度末）22人 		後方支援（出前講座）/回	R6年度内参加者の増減	松風	9（0）	4人→4人	千代台	0（3）	12人→12人	金堀広野	2（0）	10人→10人	堀川	5（0）	21人→21人	新川	8（1）	9人→9人	千歳	5（0）	8人→9人	大縄	2（0）	11人→10人	上新川	1（0）	7人→7人	若松	3（0）	15人→15人	的場	（休止中）		<p>【活動目標】 元気サロン等、活動の場に参加し続ける高齢者が増える</p> <p>【評価】 ・サロンでは、年度を通じて登録者の変動はほぼなかったが、平均参加者数は減少傾向にある。活動目標は一部達成したと評価する。</p> <p>・リーダーにかかる負担、活動意欲の低下、地域への周知不足等のため、今後の参加継続に不安を感じているメンバーもいる。</p> <p>・メンバーが健康意識を持ち、活動を続けることができるよう、外部講師や介護予防、健康づくり制度の活用をする等により、後方支援を継続する必要があると考える。</p> <p>・生活習慣病等の悪化予防の意識付けを目的に、健康アンケートを実施した。メンバーからは「減塩のために皆はどうしている？」等の話題が出たり、「室内運動を続けてる。」「食べ過ぎないようによく噛んで食べる。」「ストレスになるので程々に気をつけてる。」等、意見交換する様子が見られた。</p> <p>・メンバー同士の情報、意見交換等の機会があることで、健康習慣を考えるきっかけとなり、サロン活動等の参加意欲を持ち続けることに期待が持てると思われる。</p>																																																																									
	後方支援（出前講座）/回	R6年度内参加者の増減																																																																																																										
松風	9（0）	4人→4人																																																																																																										
千代台	0（3）	12人→12人																																																																																																										
金堀広野	2（0）	10人→10人																																																																																																										
堀川	5（0）	21人→21人																																																																																																										
新川	8（1）	9人→9人																																																																																																										
千歳	5（0）	8人→9人																																																																																																										
大縄	2（0）	11人→10人																																																																																																										
上新川	1（0）	7人→7人																																																																																																										
若松	3（0）	15人→15人																																																																																																										
的場	（休止中）																																																																																																											

令和7年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
<p>支え合いや健康づくりに関心のある地域住民（特に高齢者）が、地域活動の状況を知ることができる</p>	<p>1 懇談会、行事参加、出前講座等を行い、助け合いや社会参加状況について話題にし、地域活動の内容・効果的な周知について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり懇談会（町会、関係機関、学校等） ・民児協定例会への参加 ・町会、商店街組合等の行事へ参加 ・運営推進会議の出席 ・出前講座の開催 <p>2 広報紙、リーフレットの作成をし、配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会等で聞き取りした地域活動について、広報紙への掲載を検討する。 <p>3 地域課題の検討を行う地域ケア会議</p> <p>【テーマ】 「サロンの現状とこれから」</p> <p>【参集者】 サロン等メンバー、地域住民、地域支援者、地域リハビリテーション関係機関（セラピスト、栄養士、歯科衛生士等）</p> <p>【内 容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サロン」の現状・課題等を報告し、共有する。 ・サロンの継続に向け、今後の取り組みについて協議する。 <p>4 サロンの継続支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サロン」について、町回覧やリーフレット配布等により周知し、高齢者や活動に興味あるボランティア等の参集を図る。 ・サロン活動の後方支援として、活動計画や進行に関する相談やモニタリング、外部講師や介護予防に関する制度等の情報提供、調整等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載内容 ・配布先 ・懇談会等の開催回数および内容 ・地域住民の声 <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数と計画達成率 ・検討した地域課題 ・検討した支援内容 ・地域づくり、資源開発への発展の有無 ・元気サロンの参加状況 <ul style="list-style-type: none"> ・支援回数、支援内容 ・参加者数 ・住民同士の助け合い、介護予防に関する参加者の声

ウ 認知症総合支援事業

(ア) 認知症初期集中支援推進事業

(イ) 認知症地域支援・ケア向上事業

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第6号

【目的】認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、認知症地域支援推進員を中心として、医療・介護等の連携強化等による、地域における支援体制の構築と認知症ケアの向上を図る。

事業内容	令和6年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
認知症総合支援事業	<p>(ア) 認知症初期集中支援推進事業</p> <p>1 認知症初期集中支援チーム員として認知症と疑われる方への対応 2件</p> <p>2 認知症初期集中支援チームに関する研修会への参加 令和6年12月11日 13時30分～17時 令和6年度認知症初期集中支援チーム員フォローアップ研修</p>	<p>【活動目標】 地域住民（特にこれから介護を担う世代）が認知症の正しい知識を得ることができる</p> <p>【評価】 ・令和5年度に引き続き、小学校の児童やその保護者に対し、認知症サポーター養成講座を開催。参加者に対し認知症の基礎知識や対応方法、地域で見守ることの大切さや早期発見、対応の重要性を伝え、認知症に関する啓発活動を行うことができた。これから介護を担う世代となる保護者が認知症の正しい知識を得る機会となったため、目標は達成したと評価する。</p> <p>・認知症カフェおれんじの木には、開設以降初めて、認知症の人が参加した。参加者は認知症の人と実際に関わったり、認知症の人を介護した家族から体験談を聞くことで、認知症に対する誤解や偏見を減少できたと考える。 また、親や祖父母を介護している参加者は、自身の思いを表出できる場ともなり「話を聴いてくれてよかった、また参加したい」と介護者の心理的負担を軽減することにもつながった。 参加者が認知症の正しい知識を得たり、認知症の人や、認知症の人と接した経験のある人と関わることで、新しい認知症観を持つ地域住民が増えることが期待できるため、今後も旗揚げ隊メンバーとともに企画し、認知症カフェの開催を継続する。</p> <p>・認知症が原因となり、問題が複雑化しているケースについて、地域ケア会議を開催した。 認知症があっても在宅生活を安心して継続できるように家族や地域支援者、専門職等で地域での支援体制の構築を協議した。 地域支援者は対象者の現状を知り、その支援方法を共に検討することで、認知症の正しい知識を得る機会となった。 本人が在宅生活を継続することに対して不安が大きい地域住民がいるケースにおいては、本人と地域住民が安心した暮らしを継続できるように双方の思いをすり合わせ、地域から理解を得ながら生活を継続できるよう支援体制の構築に努めた。</p> <p>・総合相談業務やサロンで認知症に関する相談、質問を受けたときには、認知症ガイドブックを活用し、認知症の症状や予防、相談先等について周知を行った。</p>
	<p>(イ) 認知症地域支援・ケア向上事業</p> <p>3 認知症サポーター養成講座の開催 ・令和6年12月26日 10時～10時45分 北星小学校 21名参加 ・令和7年2月20日 10時25分～12時 大森浜小学校 60名参加</p>	
	<p>4 認知症地域支援推進員連絡会活動 ・令和6年4月12日 10時30分～11時30分 会場/総合福祉センター 第1回連絡会 ・令和7年3月13日 10時～11時30分 会場/総合福祉センター 第2回連絡会 ・令和6年4月25日 13時30分～14時30分 ・令和6年5月10日 13時30分～15時30分 ・令和6年5月23日 13時30分～14時30分 ・令和6年6月13日 10時～11時 ・令和6年6月27日 13時30分～14時30分 ・令和6年7月12日 13時30分～14時30分 ・令和6年7月18日 13時30分～14時30分 ・令和6年8月22日 13時30分～14時30分 2024世界アルツハイマー月間inはこだての打ち合わせ ・令和6年9月21日 17時～18時30分 2024世界アルツハイマー月間inはこだて五稜郭タワーライトアップカウントダウンセレモニーへの参加 ・令和6年9月21日 10時～16時 2024世界アルツハイマー月間inはこだて「みんなで知ろう！認知症」の開催</p>	
	<p>5 知ってあんしん認知症ガイドブック（認知症ケアパス）の普及活動</p>	
	<p>6 認知症カフェ「おれんじの木」の開催 主催：「おれんじの木」旗揚げ隊 （地域住民、居宅介護支援事業所、介護施設、地域密着型サービス事業所） ①令和6年6月15日 13時30分～15時 23名参加 場所：特別養護老人ホーム俱有 ホールくゆう 講師：函館市防災士会 防災士 田村幸子氏 テーマ：災害のための備え ～家に帰ったらできること～</p>	

令和7年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
認知症カフェおれんじの木に新たに参加する人が増える	<p>1 多職種協働、関係者の連携を図るための取り組み</p> <p>①認知症初期集中支援チーム員としての活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症と疑われる方への早期対応 ・地域住民や関係機関・団体等に対し、支援チームの役割や機能について広報活動や協力依頼等を行い、普及啓発の推進に取り組む。 <p>2 支援体制を構築するための活動</p> <p>①認知症サポーター養成講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業、町会、一般市民、医療機関、学校等を対象に開催する。 ・年度内1～2回程度、センターで主催し開催する。 ・認知症の初期症状や接し方等、早期に異変に気づき、支援につながる適切な支援を受けられることで、認知症の人が整った環境で可能な限り在宅生活を継続することができるようにする。 ・地域の関係機関に対し、認知症サポーター養成講座紹介や開催の提案を行う。 <p>②普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ガイドブック（認知症ケアパス）を広報紙と共に配布したり出前講座で取り扱う等、広く地域住民等へ周知できるよう積極的に活用する。 ・広報紙による情報発信、認知症サポーター養成講座や認知症カフェの開催についてリーフレットやチラシを配布し周知を行う。 <p>③地域ケア会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人が地域で生活していくために、有する課題の解決に向けて関係者で検討する。 <p>3 認知症の人やその家族を支援するための活動</p> <p>①認知症カフェ「おれんじの木」の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人やその家族、地域住民や専門職等が気軽に立ち寄り、思いを共有したり、人との関わりを持つことで、地域からの孤立を防ぐことができるようにする。 ・認知症予防や早期発見の大切さ、接し方、支援方法、地域での見守りの重要性についての周知したり、専門職から新しい認知症観（認知症になってからも、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、自分らしく暮らし続けることができるということ）について助言、情報提供を行い、地域住民の認知症に対する理解を促進して認知症の人やその家族が住みやすい地域づくりを目指す。 <p>②総合相談、権利擁護ケースとしての対応</p> <p>③認知症地域支援推進員間での情報共有及び情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域支援推進員連絡会等で各圏域のセンターが開催する認知症カフェについて情報交換を行い、地域住民や専門職等へ周知することで、センターの圏域を問わず、より気軽に認知症カフェへ参加できるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援の支援数 ・認知症サポーター養成講座の開催数 ・認知症カフェの開催数内容 ・出前講座の開催数 ・本人や家族、地域支援者や地域住民等からの相談数 ・認知症に関する新規相談数 ・地域ケア会議の参加状況 ・認知症サポーター養成講座開催後の参加者の意見や感想等 ・認知症カフェ開催時の参加者の意見や感想等

事業内容	令和6年度 活動評価																																	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																
認知症総合支援事業	<p>②令和6年10月16日 13時30分～15時 26名参加 場所：特別養護老人ホーム俱有 ホールくゆう 講師：明治安田生命 函館支社 函館中央営業所 佐賀井道代氏 テーマ：血管年齢を知って、いつまでも元気に！</p> <p>③令和7年2月12日 13時30分～15時 28名参加 場所：特別養護老人ホーム俱有 ホールくゆう 講師：社会福祉法人 函館大庚会 三谷真理氏 テーマ：私の母が認知症に！そして私はこうしました</p> <p>7 認知症地域支援推進員研修及び認知症に関する研修会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年7月12日 13時20分～15時20分 オンライン 認知症体験研修会 令和6年10月11日 14時30分～16時 会場参加 道南認知症疾患医療連携協議会「認知症の鑑別診断」 令和6年10月8日 9時30分～17時30分 会場参加 令和6年10月9日 9時30分～16時 会場参加 令和6年度 認知症地域支援推進員研修 新任者研修 令和6年8月28日 9時30分～16時30分 オンライン 令和6年8月29日 9時30分～15時50分 オンライン 令和6年度 認知症地域支援推進員研修 現任者研修 <p>8 本人・家族支援</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合相談件数</td> <td>1,617</td> <td>1,909</td> <td>1,582</td> </tr> <tr> <td>うち認知症に関する相談件数</td> <td>93</td> <td>146</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>認知症に関する総合相談件数の割合</td> <td>5.8%</td> <td>7.6%</td> <td>7.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合相談件数</td> <td>1,617</td> <td>1,909</td> <td>1,582</td> </tr> <tr> <td>うち家族、親族</td> <td>670</td> <td>831</td> <td>655</td> </tr> <tr> <td>家族、親族の相談者件数の割合</td> <td>41.4%</td> <td>43.5%</td> <td>41.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○個別ケースを検討する地域ケア会議の開催件数 認知症に関するケース：4件</p> <p>①令和6年6月12日 11時～12時 場所：日乃出町会館 テーマ：本人が家事等の危険性がない環境で安全に生活するために 参加者：4名（在宅福祉委員、ケアマネジャー、生活支援課）</p> <p>②令和6年11月19日 14時～15時 場所：大縄町会館 テーマ：これからも夫婦で穏やかに暮らしていくために 参加者：3名（民生委員、町会役員、ケアマネジャー）</p> <p>③令和7年2月14日 14時～15時 場所：若松町会館 テーマ：これからも今のアパートで暮らしたい 本人が安心安全に暮らしていくために 参加者：9名（民生委員、燃料店、ケアマネジャー、訪問看護事業所、生活支援課、警察）</p>		R4年度	R5年度	R6年度	総合相談件数	1,617	1,909	1,582	うち認知症に関する相談件数	93	146	114	認知症に関する総合相談件数の割合	5.8%	7.6%	7.2%		R4年度	R5年度	R6年度	総合相談件数	1,617	1,909	1,582	うち家族、親族	670	831	655	家族、親族の相談者件数の割合	41.4%	43.5%	41.4%	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に関する研修会に参加し、認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チーム員としての対応力向上に努めた。 認知症初期集中支援チーム員として認知症と疑われる方へ早期の段階から対応したことで、必要な支援につなげることができた。 総合相談業務における認知症に関する相談対応件数の割合は横ばいで推移しており、令和4年度と比較すると増加傾向にある。また相談者が家族や親族である割合も同様に令和4年度から増加傾向にある。認知症の人を支える家族の介護負担が大きくなり共倒れとなり得る事例が今後増えることが想定される。引き続き介護を控える世代へ早期段階での相談、認知症の正しい知識を普及啓発することに努める。 個別支援や認知症カフェの開催、その他の認知症地域支援推進員の活動等を通して、認知症になっても自分らしい暮らしを続けていくための普及啓発を継続しているが、参加者や関係者が固定化している実情があり、地域住民間の知識量に差があると考えられる。認知症の人が増加している現状を踏まえると様々な年代のより多くの人に認知症の正しい知識を得てもらい、地域全体で認知症の人を見守り支え合う体制を築くことができるような地域住民を増やすことが必要と考える。認知症地域支援推進員としての活動を継続していく。
		R4年度	R5年度	R6年度																														
総合相談件数	1,617	1,909	1,582																															
うち認知症に関する相談件数	93	146	114																															
認知症に関する総合相談件数の割合	5.8%	7.6%	7.2%																															
	R4年度	R5年度	R6年度																															
総合相談件数	1,617	1,909	1,582																															
うち家族、親族	670	831	655																															
家族、親族の相談者件数の割合	41.4%	43.5%	41.4%																															

令和7年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

事業内容	令和6年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
認知症総合 支援事業	④令和7年2月19日（水）16時30分～17時30分 場所：センター テーマ：「忘れっぽくなって困ってます、家に居たい」 を応援する話し合い 参加者：4名（民生委員、ケアマネジャー、訪問看護、警察署生活安全課）	

令和7年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標